



show gateway ~ show modem relay statistics

- [show gateway](#) (2 ページ)
- [show h323 calls preserved](#) (4 ページ)
- [show h323 gateway](#) (6 ページ)
- [show h323 gateway prefixes](#) (13 ページ)
- [show http client cache](#) (15 ページ)
- [show http client cache](#) (19 ページ)
- [show http client cookie](#) (23 ページ)
- [show http client history](#) (25 ページ)
- [show http client secure status](#) (26 ページ)
- [show http client statistics](#) (28 ページ)
- [show interface dspfarm](#) (32 ページ)
- [show interfaces cable-modem](#) (38 ページ)
- [show ip address trusted check](#) (43 ページ)
- [show iua as](#) (44 ページ)
- [show iua asp](#) (47 ページ)
- [show media-proxy sessions](#) (50 ページ)
- [show media resource status](#) (54 ページ)
- [show mediacard](#) (56 ページ)
- [show mgcp](#) (59 ページ)
- [show mgcp connection](#) (69 ページ)
- [show mgcp endpoint](#) (74 ページ)
- [show mgcp nas](#) (77 ページ)
- [show mgcp profile](#) (81 ページ)
- [show mgcp srtp](#) (86 ページ)
- [show mgcp statistics](#) (89 ページ)
- [show modem relay statistics](#) (94 ページ)

show gateway

ゲートウェイの現在のステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show gateway** コマンドを使用します。

show gateway

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
11.3(6)NA2	このコマンドが導入されました。
12.0(5)T	H.323 バージョン 2 での表示形式が変更されました。
12.1(5)XM2	このコマンドが Cisco AS5350 および Cisco AS5400 に導入されました。
12.2(4)T	このリリースでは、このコマンドは Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 ではサポートされていません。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合されました。

例

次の出力例は、当該ゲートウェイがゲートキーパーに登録されていない場合に表示されるレポートです。

```
Router# show gateway
Gateway gateway1 is not registered to any gatekeeper
Gateway alias list
H323-ID gateway1
H323 resource thresholding is Enabled but NOT Active
H323 resource threshold values:
DSP: Low threshold 60, High threshold 70
DSO: Low threshold 60, High threshold 70
```

次の出力例は、当該ゲートウェイに E.164 アドレスが割り当てられていることを示しています。

```
Router# show gateway
Gateway gateway1 is registered to Gatekeeper gk1
Gateway alias list
E.164 Number 5551212
H323-ID gateway1
```

次の出力例は、ゲートウェイがゲートキーパーに登録されており、かつ **resource threshold** コマンドで H.323 リソースしきい値のレポート出力が有効に設定されている場合に表示されるレポートです。

```
Router# show gateway
Gateway gateway1 is registered to Gatekeeper gk1
Gateway alias list
H323-ID gateway1
H323 resource thresholding is Enabled and Active
H323 resource threshold values:
DSP: Low threshold 60, High threshold 70
DS0: Low threshold 60, High threshold 70
```

次の出力例は、ゲートウェイがゲートキーパーに登録されており、かつ **no resource threshold** コマンドで H.323 リソースしきい値のレポート出力が無効に設定されている場合に表示されるレポートです。

```
Router# show gateway
Gateway gateway1 is registered to Gatekeeper gk1
Gateway alias list
H323-ID gateway1
H323 resource thresholding is Disabled
```

フィールドの説明は自明のため省略します。

関連コマンド

Command	Description
resource threshold	ゲートウェイが、当該ゲートウェイのゲートキーパーに対して H.323 リソースの可用性を報告するよう設定します。

show h323 calls preserved

保持されているアクティブな H.323 VoIP コールに関するデータを表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show h323 calls preserved** コマンドを使用します。

show h323 calls preserved

コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(4)XC	このコマンドが導入されました。
12.4(9)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.4(9)T に組み込まれました。

使用上のガイドライン

show h323 calls preserved コマンドを使用すると、保持されているコールあたりのデータを表示できます。アクティブなコールのみが表示され、保持されたコール履歴は表示されません。

トランスレーションルールを設定済みの場合、「Calling Number」フィールドに表示される値は、ゲートウェイによってトランスレート済みである可能性があります。ゲートウェイは、着信番号の値をコールのルーティング先番号として処理します。

「CallID」フィールドには、各コールレグに割り当てられているグローバルに一意の 16 オクテットの接続 ID が短縮形式で表示されます。**show call active voice brief** コマンドでも、CallID 値の短縮形式（第 3 オクテットの一部と第 4 オクテット）が表示されます。CallID 値を長い形式で出力するには、**show call active voice** コマンドを使用します。

show voice call status コマンドや **clear call voice** コマンドなど、ゲートウェイに対して他の音声コマンドを実行するときには、この CallID 値を使用して当該 CallID に関連付けられたコールレグを参照できます。

「H225FD」フィールドまたは「H245FD」フィールドに出力値 -1 が表示された場合は、H.225.0 接続でエラーが検出されたために当該コールが保存されたことを示しています。このコールで使用された実際の H.225.0 ソケットファイル記述子は、このコールの保存時に出力された syslog メッセージに記載されています。

特定のコールに関する詳細情報を取得するには、**show call active voice** コマンドも使用できます。コールをクリアするには、**clear call voice causecode** コマンドを使用します。

例

次に示す **show h323 calls preserved** コマンドの出力例では、保存済みのアクティブコールが 1 つあることが示されています。

```
Router# show h323 calls preserved
CallID = 11EC , Calling Number = , Called Number = 3210000 ,
RemoteSignallingIPAddress=9.13.0.26 , RemoteSignallingPort=49760 ,
RemoteMediaIPAddress=9.13.0.11 , RemoteMediaPort=17910 , Preserved Duration = 262 , Total
Duration = 562 , H225 FD = -1 , H245 FD = -1
```

次の表に、**show h323 calls preserved** コマンド出力に表示される各種フィールドの一覧（アルファベット順）と、各フィールドの説明を示します。

表 1: **show h323 calls preserved** のフィールドの説明

フィールド	説明
Called Number	発信者が入力した電話番号。
CallID	show call active voice brief コマンドで表示される接続IDの短縮名。
H225 FD	H.225.0 TCP ソケットのファイル記述子番号。
H245 FD	H.245 TCP ソケットのファイル記述子番号。
Preserved Duration	コールが保持されている時間（秒単位）。
RemoteMediaIPAddress	リモートメディアの IP アドレス。
RemoteMediaPort	リモートメディアの IP アドレス。
RemoteSignallingIPAddress	リモートシグナリングの IP アドレス。
RemoteSignallingPort	リモートシグナリングポート。
Total Duration	通話時間（秒単位）。

関連コマンド

コマンド	説明
call preserve	H.323 VoIP コールの保存を有効にします。
clear call voice	RTP または RTCP アクティビティがないために非アクティブとして検出された、単一または複数の音声コールをクリアします。
show call active voice	進行中の音声コールの発信者情報を表示します。
show voice call	Cisco ルータの音声ポートのコールステータスを表示します。

show h323 gateway

送受信された H.323 ゲートウェイメッセージの統計情報、および H.323 コールが切断された原因を表示するには、特権 EXEC モードで **show h323 gateway** コマンドを使用します。

show h323 gateway [{cause-code stats|h225|ras}]

構文の説明	
cause -code stats	(任意) H.323 サブシステムが受信した切断原因コードを出力に表示します。切断は、遠端側ゲートウェイから、またはローカルゲートウェイの反対側のコールログから行われます。
h225	(任意) カウンタが最後にクリアされてから送受信された H.225 メッセージの数の累積カウントを出力に表示します。
ras	(任意) カウンタが最後にクリアされてからゲートキーパーとの間で送受信された Registration, Admission, and Status (RAS) メッセージのカウンタを出力に一覧表示します。

コマンド デフォルト 任意の統計情報をすべて表示するには、任意のキーワードを指定せずにこのコマンドを使用します。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(4)T	このコマンドが、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 を除く Cisco H.323 各種プラットフォームに導入されました。

例

次に示す Cisco 3640 ルータの例は、このコマンドをキーワードなしで使用して、すべてのオプションの統計情報を表示したものです。フィールドの説明については、次の表を参照してください。

```
Router# show h323 gateway
H.323 STATISTICS AT 01:45:55
H.225 REQUESTS      SENT      RECEIVED  FAILED
Setup               0         5477      0
Setup confirm      5424      0         0
Alert               2734      0         0
Progress            2701      0         0
Call proceeding    5477      0         0
Notify              0         0         0
Info                0         0         0
User Info           0         0         0
Facility            2732      0         0
Release             5198      5313      241
Reject              0         0         0
Passthrough         0         0         0
H225 establish timeout 0
RAS failed          0
```

```

H245 failed          0
RAS MESSAGE          REQUESTS SENT   CONFIRMS RCVD   REJECTS RCVD
GK Discovery         grq 0           gcf 0           grj 0
Registration         rrq 130        rcf 130        rrj 0
Admission            arq 5477       acf 5477       arj 0
Bandwidth            brq 0          bcf 0          brj 0
Disengage            drq 5439       dcf 5439       drj 0
Unregister           urq 0          ucf 0          urj 0
Resource Avail       rai 0          rac 0
Req In Progress      rip 0
RAS MESSAGE          REQUESTS RCVD   CONFIRMS SENT   REJECTS SENT
GK Discovery         grq 0           gcf 0           grj 0
Registration         rrq 0          rcf 0          rrj 0
Admission            arq 0          acf 0          arj 0
Bandwidth            brq 0          bcf 0          brj 0
Disengage            drq 0          dcf 0          drj 0
Unregister           urq 0          ucf 0          urj 0
Resource Avail       rai 0          rac 0
Req In Progress      rip 0
DISC CAUSE CODE      FROM OTHER PEER   FROM H323 PEER
16 normal call clearing 66                5325
31 normal, unspecified 1                  0
34 no circuit         31                0
41 temporary failure  3                  0
44 no requested circuit 13                0

```

次に示す Cisco 3640 ルータの例は、キーワード `cause-code stats` を入れてこのコマンドを使用することによって、H.323 サブシステムが受信した切断原因コードを表示したものです。切断は、遠端側ゲートウェイから、またはローカルゲートウェイの反対側のコールログから行われます。数がゼロ以外の原因コードのみ表示されます。

```

Router# show h323 gateway cause-code stats
CAUSE CODE STATISTICS AT 01:40:25
DISC CAUSE CODE      FROM OTHER PEER   FROM H323 PEER
16 normal call clearing 66                4976
31 normal, unspecified 1                  0
34 no circuit         31                0
41 temporary failure  3                  0
44 no requested circuit 13                0

```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 2: `show h323 gateway cause-code stats` のフィールドの説明

フィールド	説明
列見出し :	
DISC CAUSE CODE	10進値で示される原因コードおよび説明テキスト。
FROM OTHER PEER	各原因コードあたりの、相手側コールログ（たとえば、PRI T1 POTS ピアや、Foreign Exchange Station (FXS) POTS ピア）から受信した切断の数。
FROM H323 PEER	各原因コードあたりの、遠端ゲートウェイから受信した切断の数。

フィールド	説明
見出しの下に一覧表示されている各種フィールドは、自明のため説明を省略します。	

次に示す Cisco 3640 ルータの例は、キーワード **h225** を入れてこのコマンドを使用することによって、カウンタが最後にクリアされてから送受信された H.225 メッセージ数の累積カウントを表示したものです。

1 行につき 1 種類の H.225 要求の送信数、受信数および失敗数が表示されます。カウンタがクリアされていない場合は、ルータが最後にリロードされてからの合計数が表示されます。

```
Router# show h323 gateway h225
H.225 STATISTICS AT 00:44:57
H.225 REQUESTS      SENT      RECEIVED   FAILED
Setup               1654      0          0
Setup confirm       0         1654      0
Alert               0         828       0
Progress            0         826       0
Call proceeding     0         1654      0
Notify              0         0          0
Info                0         0          0
User Info           0         0          0
Facility            0         828       0
Release             1613      9          1
Reject              0         0          0
Passthrough         0         0          0
H225 establish timeout 0
RAS failed          1
H245 failed         0
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 3: show h323 gateway h225 のフィールドの説明

フィールド	説明
列見出し:	
H.225 REQUESTS	H.225 メッセージのタイプ。
SENT	ゲートウェイによって送信された H.225 メッセージの数。
RECEIVED	リモートゲートウェイまたはエンドポイントから受信した H.225 メッセージの数。
FAILED	送信できなかった H.225 メッセージの数。送信の失敗は、たとえば、H.323 サブシステムが H.225 リリース要求の送信を試みたものの、TCP ソケットがすでに閉じられていた場合などに発生する可能性があります。
フィールド:	

フィールド	説明
Setup	送信された、受信された、または送信できなかったセットアップメッセージの数。このメッセージは発信側の H.323 エンティティによって送信され、着信側エンティティへの接続をセットアップする必要がある旨を示しています。
Setup confirm	送信された、受信された、または送信できなかったセットアップ確認メッセージの数。このメッセージは、H.323 エンティティから、セットアップメッセージを受信した確認応答として送信される場合があります。
Alert	送信された、受信された、または送信できなかったアラートメッセージの数。このメッセージは、着信側ユーザーから、着信側ユーザーのアラートが開始したこと（日常的な表現で言うと「電話が鳴っている」状態）を示すために送信される場合があります。
Progress	送信された、受信された、または送信できなかった進行中メッセージの数。このメッセージは、H.323 エンティティから、コールの進行状況を示すために送信される場合があります。
Call proceeding	送信された、受信された、または送信できなかったコール処理中メッセージの数。このメッセージは、着信側ユーザーから、要求されたコール確立が開始されたこと、およびそれ以上のコール確立情報が受け入れられないことを示すために送信される場合があります。
Notify	送信された、受信された、または送信できなかった通知メッセージの数。
Info	送信された、受信された、または送信できなかった情報メッセージの数。
User Info	送信された、受信された、または送信できなかったユーザー情報メッセージの数。このメッセージは、コール確立のための追加情報（たとえば、オーバーラップシグナリング）や、その他のコール関連情報、または独自の機能を提供するために使用される場合があります。
Facility	送信された、受信された、または送信できなかったファシリティメッセージの数。このメッセージは、コールの転送先に関する情報を提供したり、エンドポイントが着信コールがゲートキーパーを通過する必要があることを示すために使用されます。
Release	送信された、受信された、または送信できなかったリリースメッセージの数。このメッセージは、信頼性の高いコールシグナリングチャンネルが開いている場合に、コールのリリースを示すためにゲートウェイから送信されます。
Reject	送信された、受信された、または送信できなかった拒否メッセージの数。
Passthrough	送信された、受信された、または送信できなかったパススルーメッセージの数。

フィールド	説明
H225 establish timeout	H.323 サブシステムが、コール用のリモートゲートウェイへの H.225 接続を確立できなかった回数。
RAS failed	ゲートキーパーからアドミッション拒否 (ARJ) メッセージまたは解除拒否 (DRJ) メッセージを受信した回数。この回数は、show h323 gateway ras コマンドの出力に表示される arj の受信カウンタの数と drj 受信カウンタの数を合計した値と等しくなるはずです。
H245 failed	H.323 サブシステムがコール用の H.245 トンネルを作成できなかった、または H.245 メッセージを送信できなかった回数。

次に示す Cisco 3640 ルータの例は、**ras** キーワードを入れてこのコマンドを使用することにより、ゲートキーパーとの間で送受信された Registration, Admission, and Status (RAS) メッセージのカウンタを表示したものです。Resource Avail メッセージと Req In Progress メッセージを除き、各 RAS メッセージには、要求メッセージ、確認メッセージおよび拒否メッセージの3つのバリエーションがあります。たとえば、アドミッションメッセージタイプには、アドミッション要求 (arq) メッセージ、アドミッション確認 (acf) メッセージ、およびアドミッション拒否 (arj) メッセージがあります。ゲートウェイから arq メッセージが送信されると、ゲートキーパーはそのアドミッション要求を確認するか拒否するかに応じて acf メッセージまたは arj メッセージのいずれかで応答します。

以下の2つの表では、各表につき同じメッセージタイプが一覧表示されており、各行につき異なるメッセージタイプが表示されています。1つ目の表には、送信した要求、受信した確認、および受信した拒否が表示されています。2つ目の表には、受信した要求、送信した確認、および送信した拒否が表示されています。2つ目の表にある一部の行は、ゲートキーパーにのみ適用されます (たとえば、ゲートウェイが、登録要求 (rrq) メッセージの受信や、登録確認 (rcf) メッセージの送信、登録拒否 (rrj) メッセージの送信を行わない場合など)。

```
Router# show h323 gateway ras
RAS STATISTIC AT 01:10:01
RAS MESSAGE   REQUESTS SENT   CONFIRMS RCVD   REJECTS RCVD
GK Discovery  grq 3           gcf 1           grj 0
Registration  rrq 73          rcf 73          rrj 0
Admission     arq 3216        acf 3215        arj 1
Bandwidth     brq 0           bcf 0           brj 0
Disengage     drq 3174        dcf 3174        drj 0
Unregister    urq 0           ucf 0           urj 0
Resource Avail rai 0           rac 0
Req In Progress rip 0
RAS MESSAGE   REQUESTS RCVD   CONFIRMS SENT   REJECTS SENT
GK Discovery  grq 0           gcf 0           grj 0
Registration  rrq 0           rcf 0           rrj 0
Admission     arq 0           acf 0           arj 0
Bandwidth     brq 0           bcf 0           brj 0
Disengage     drq 0           dcf 0           drj 0
Unregister    urq 0           ucf 0           urj 0
Resource Avail rai 0           rac 0
Req In Progress rip 0
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 4 : show h323 gateway ras のフィールドの説明

フィールド	説明
1 つ目の表の列見出し :	
RAS MESSAGE	RAS メッセージのタイプ。
REQUESTS SENT	ゲートウェイからゲートキーパーに送信された RAS 要求メッセージの数。
CONFIRMS RCVD	ゲートキーパーから受信した RAS 確認メッセージの数。
REJECTS RCVD	ゲートキーパーから受信した RAS 拒否メッセージの数。
2 つ目の表の列見出し :	
RAS MESSAGE	RAS メッセージのタイプ。
REQUESTS RCVD	ゲートキーパーから受信した RAS 要求メッセージの数。
CONFIRMS SENT	ゲートウェイによって送信された RAS 確認メッセージの数。
REJECTS SENT	ゲートウェイによって送信された RAS 拒否メッセージの数。
フィールド :	
GK Discovery	受信したすべてのゲートキーパーに対して、ゲートキーパー確認 (GCF) メッセージで応答して登録許可を付与するよう要求するゲートキーパー要求 (GRQ) メッセージ。ゲートウェイ拒否 (GRJ) メッセージはこの要求に対する拒否であり、要求側のエンドポイントが別のゲートキーパーを探す必要があることを示します。
Registration	登録要求 (RRQ) メッセージは、端末からゲートキーパーへの登録要求です。ゲートキーパーが登録確認 (RCF) メッセージで応答した場合、端末は応答したゲートキーパーを今後のコールに使用します。ゲートキーパーが登録拒否 (RRJ) メッセージで応答した場合、端末は登録する別のゲートキーパーを探す必要があります。
Admission	アドミッション要求 (ARQ) メッセージは、ゲートキーパーに対して、エンドポイントによるパケットベースネットワークへのアクセス許可を要求します。これを受けてゲートキーパーは、アドミッション確認 (ACF) メッセージを返してその要求を許可するか、アドミッション拒否 (ARJ) メッセージを返して拒否します。

フィールド	説明
Bandwidth	帯域幅要求 (BRQ) メッセージは、ゲートキーパーに対して、エンドポイントによる変更済みのパケットベースネットワークの帯域幅割り当て許可を要求します。これを受けてゲートキーパーは、帯域幅確認 (BCF) メッセージを返してその要求を許可するか、帯域幅拒否 (BRJ) メッセージを返して拒否します。
Disengage	解除要求 (DRQ) メッセージは、エンドポイントからゲートキーパーに送信された場合、エンドポイントがドロップされていることをゲートキーパーに通知します。DRQメッセージは、ゲートキーパーからエンドポイントに送信された場合、コールを強制的にドロップします。この場合の要求は拒否されません。DRQメッセージは各エンドポイント間では直接送信されません。
Unregister	登録解除要求 (URQ) メッセージは、端末とゲートキーパー間の関連付けを解除することを要求します。URQリクエストは双方向であることに注意してください。つまり、ゲートキーパーが端末に対して自身の登録解除を要求できるとともに、端末がゲートキーパーに対して前の登録を取り消す旨を通知することもできます。
Resource Avail	Resource Availability Indication (RAI) メッセージは、ゲートウェイからゲートキーパーに対して送信される、各Hシリーズプロトコルごとの現在のコールキャパシティと、当該プロトコルのデータレートに関する通知です。ゲートキーパーは、RAIメッセージを受信すると、メッセージを受信したことの確認応答として Resource Availability Confirmation (RAC) メッセージで応答します。
Req In Progress	Request In Progress (RIP) メッセージは、通常の再試行タイムアウト時間内にメッセージへの応答を生成できない場合に、ゲートウェイまたはゲートキーパーによって使用される場合があります。RIPメッセージは、応答生成までの時間制限を指定します。

関連コマンド

コマンド	説明
show h323 gateway prefixes	宛先パターンデータベースのステータス、および個々の宛先パターンのステータスを表示します。

show h323 gateway prefixes

宛先パターンデータベースのステータス、および個々の宛先パターンのステータスを表示するには、特権 EXEC モードで **show h323 gateway prefixes** コマンドを使用します。

show h323 gateway prefixes

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(15)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show h323 gateway prefixes コマンドを使用すると、アクティブな単純な旧式の電話サービス (POTS) ダイアルピアからの宛先パターン、宛先パターンの現在の状態 (宛先パターンがゲートキーパーに送信されたか、またはゲートキーパーの確認応答を受けたかどうか)、およびゲートウェイでダイナミックプレフィックスのアダプタイズメントが有効になっているかどうかを表示できます。

例

次の例は、このコマンドでゲートウェイの宛先パターンデータベースのステータスを表示したものです。

```
Router# show h323 gateway prefixes
GK Supports Additive RRQ      : True
GW Additive RRQ Support Enabled : True
Pattern Database Status       : Active
Destination                    Active
Pattern                        Status      Dial-Peers
=====
1110509*                      ADD ACKNOWLEDGED      2
1110511*                      ADD ACKNOWLEDGED      2
23*                            ADD ACKNOWLEDGED      2
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 5 : show h323 gateway prefixes のフィールドの説明

フィールド	説明
Pattern Database Status	ゲートウェイの宛先パターンデータベースのステータス (アクティブまたは非アクティブ)。

フィールド	説明
Status	<p>宛先パターンステータスのステータス。ステータスは次のいずれかで表示されます。</p> <p>ADD PENDING-- ゲートウェイには、ゲートキーパーへの送信を待機しているプレフィックスがあります。プレフィックスの送信は、ライトウェイト登録要求 (RRQ; registration request) RAS メッセージスケジュール (30 秒ごと) のみで行われます。</p> <p>ADD SENT-- ゲートウェイは当該プレフィックスをゲートキーパーに送信済みであり、登録確認 (RCF) RAS メッセージによる確認応答を待機しています。</p> <p>ADD ACKNOWLEDGED-- ゲートウェイは、ゲートキーパーが当該プレフィックスを承認したことを示す RCF メッセージを受信済みです。ダイナミックゾーンプレフィックス登録が正常に機能している場合は、これが正常な状態です。</p> <p>ADD REJECTED-- ゲートキーパーは当該プレフィックスを承認せず、登録拒否 (RRJ; registration reject) RAS メッセージを送信しました。拒否の原因としては、静的ゾーンプレフィックス設定によって、またはこのプレフィックスが別のゾーンの別のゲートウェイで最初にダイナミック登録されたことによって、このプレフィックスがすでに別のゾーンのゲートキーパーで登録済みであることが考えられます。</p> <p>DELETE PENDING-- 当該プレフィックスはサービス停止中です。考えられる原因には、たとえば、ダイヤルピアがシャットダウンしたために、ゲートウェイが登録解除要求 (URQ) RAS メッセージをゲートキーパーに送信したうえでプレフィックスの削除を待機中である状態などがあります。URQ メッセージは、30 秒ごとのライトウェイト RRQ スケジュールに合わせて送信されます。</p> <p>DELETE SENT-- ゲートウェイがゲートキーパーに対して、当該プレフィックスの削除を要求する URQ メッセージを送信済みです。DELETE ACKNOWLEDGED ステータスはありません。その後プレフィックスがサービスに復帰すると、ステータスは ADD PENDING に戻ります。</p>

関連コマンド

コマンド	説明
show h323 gateway	送受信された H.323 ゲートウェイ メッセージの統計情報、および H.1323 コールが切断された原因を表示します。

show http client cache

HTTP クライアントキャッシュに含まれるエントリの情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show http client cache** コマンドを使用します。

show http client cache [brief]

構文の説明

brief	(任意) HTTP クライアントキャッシュに関する要約情報を表示します。
--------------	--------------------------------------

コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(2)XB	このコマンドが Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合され、Cisco 3640 および Cisco 3660 に導入されました。
12.4(15)T	コマンド出力が変更され、HTTP および HTTPS 形式の URL のキャッシュファイルが個別のテーブルに表示されるようになりました。コマンド出力が変更され、HTTP サーバーから返されたクエリデータのキャッシングが有効になっているときには URL 属性値がマスクされるようになりました。
12.4(15)XY	コマンド出力中の Age フィールドの隣に、「古い」と手動でマーク付けされたエントリを意味するシャープ記号 (#) が追加されました。
12.4(20)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.4(20)T に統合されました。

使用上のガイドライン

HTTP キャッシングの詳細については、準拠している仕様 RFC 2616、*Hypertext Transfer Protocol (HTTP) /1.1* (1999 年 6 月、IETF) を参照してください。

例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show http client cache
HTTP Client cached information
=====
Maximum memory pool allowed for HTTP Client caching = 100000 K-bytes
Maximum file size allowed for caching = 10 K-bytes
Total memory used up for Cache = 18837 Bytes
Message response timeout = 10 secs
Total cached entries      = 5
Total non-cached entries  = 0

                        Cached entries
                        =====
Cached table entry 167, number of cached entries = 2
Request URL              Ref   FreshTime  Age      Size
-----
abc.com/vxml/menu.vxml  0    20         703     319
```

```

abc.com/vxml/opr.vxml          0      647424      646      2772
Cached table entry 171, number of cached entries = 1
Request URL                    Ref    FreshTime  Age      Size
-----
onlineshop.com/catalog/advance.vxml  0      69077      1297649   3453
Cached table entry 172, number of cached entries = 1
Request URL                    Ref    FreshTime  Age      Size
-----
theater.com/vxml/menu_main.vxml    0      86400      1297661   8734
Cached table entry 176, number of cached entries = 1
Request URL                    Ref    FreshTime  Age      Size
-----
popcorn.com/menu/selection.vxml    1      20         7         3559

```

次に、**set http client cache stale** コマンドを使用して、HTTP クライアントキャッシュ内のすべてのエントリを「stale (古い)」に設定した例を示します。古いエントリには、Age フィールドの横にシャープ記号 (#) が表示されています。

```

Router# show http client cache
HTTP Client cached information
=====
Maximum memory pool allowed for HTTP Client caching = 20000 K-bytes
Maximum file size allowed for caching = 1000 K-bytes
Total memory used up for Cache = 37758 Bytes
Message response timeout = 10 secs
Total cached entries = 7
Total non-cached entries = 0
      Cached entries
      =====
entry 142, 1 entries
Ref  FreshTime  Age      Size  context
---  -
0    30          53233   # 486  63D8FCC4
url: http://goa/TEST1.vxml
entry 145, 1 entries
Ref  FreshTime  Age      Size  context
---  -
1    4001998    53218   # 151  0
url: http://win2003/TEST2.vxml
entry 157, 1 entries
Ref  FreshTime  Age      Size  context
---  -
1    30          28      # 185  0
url: http://goa/TEST3.vxml
entry 164, 1 entries
Ref  FreshTime  Age      Size  context
---  -
1    2231127    53233   # 1183 0
url: http://goa/audio/en_welcome.au
entry 166, 2 entries
Ref  FreshTime  Age      Size  context
---  -
1    2231127    53233   # 4916 0
url: http://goa/audio/en_one.au
1    2231127    53229   # 4500 0
url: http://goa/audio/en_three.au
entry 169, 1 entries
Ref  FreshTime  Age      Size  context
---  -
1    2231127    53229   # 7224 0
url: http://goa/audio/en_two.au

```

下の表に、このコマンド出力で表示されるフィールドの説明を示します。

表 6 : show http client cache のフィールドの説明

フィールド	説明
Maximum memory pool allowed for HTTP Client caching	HTTP クライアントがキャッシュされたエントリの保存に利用できるメモリの最大容量 (KB 単位)。この値の設定は、 http client cache memory コマンドで行います。
Maximum file size allowed for caching	キャッシュできるファイルの最大サイズ (KB 単位)。この上限を超えるファイルはキャッシュできません。この値の設定は、 http client cache memory コマンドで行います。
Total memory used up for Cache	キャッシュされたエントリの保存に現在使用されている合計メモリ用量 (KB 単位)。
Total cached entries	キャッシュされたエントリの合計数。
Total non-cached entries	現在キャッシュされていない、1 回限り使用された一時的な HTTP エントリの合計数。
Cached table entry	キャッシュテーブルエントリのインデックスマーカー。各キャッシュテーブルエントリには、要求およびキャッシュされた複数の URL が含まれる場合があります。
number of cached entries	キャッシュテーブルエントリ内の URL エントリ数。
Request URL	キャッシュされたエントリの URL。
Ref	キャッシュされたエントリがアプリケーションでまだ使用されているかどうか。0 の場合は、当該エントリが解放済みであることを意味します。1 以上の場合、当該エントリが表示された数のアプリケーションによってまだ使用されていることを意味します。
FreshTime	<p>キャッシュされたエントリの有効期間 (秒単位)。エントリの Age がリフレッシュ時間と同じかリフレッシュ時間より古い場合、当該エントリは期限切れとなります。期限切れのキャッシュエントリに対して要求が送信されると、HTTP クライアントはサーバーに更新の条件付き要求を送信します。</p> <p>この値の設定は、HTTP サーバー上で行うか、またはゲートウェイで http client cache refresh コマンドを使用して行えます。</p>
Age	<p>エントリがキャッシュに格納されている時間 (秒単位)。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャープ記号 (#) は、手動で「古い」マークが付けられたエントリを示します。 アスタリスク (*) は、手動介入なしで古くなったエントリを示します。

show http client cache

フィールド	説明
Size	キャッシュされたエントリのサイズ (バイト単位)。

関連コマンド

コマンド	説明
http client cache memory	HTTP クライアントキャッシュを設定します。
http client cache refresh	HTTP クライアントキャッシュのリフレッシュ時間を設定します。
http client response timeout	HTTP クライアントサーバーの応答タイムアウトを設定します。
set http client cache stale	HTTP クライアントキャッシュ内にあるすべてのエントリのステータスを「古い」に設定します。
show http client connection	現在の HTTP クライアント接続に関する情報を表示します。

show http client cache

HTTP クライアントキャッシュに含まれるエントリの情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show http client cache** コマンドを使用します。

show http client cache [brief]

構文の説明	brief (任意) HTTP クライアントキャッシュに関する要約情報を表示します。
-------	---

コマンドモード ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(2)XB	このコマンドが Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 に導入されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合され、Cisco 3640 および Cisco 3660 に導入されました。
	12.4(15)T	コマンド出力が変更され、HTTP および HTTPS 形式の URL のキャッシュファイルが個別のテーブルに表示されるようになりました。コマンド出力が変更され、HTTP サーバーから返されたクエリデータのキャッシングが有効になっているときには URL 属性値がマスクされるようになりました。

使用上のガイドライン HTTP キャッシングの詳細については、準拠している仕様 RFC 2616、*Hypertext Transfer Protocol (HTTP) /1.1* (1999 年 6 月、IETF) を参照してください。

例 次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show http client cache
HTTP Client cached information
=====
Maximum memory pool allowed for HTTP Client caching = 10000 K-bytes (default)
Maximum file size allowed for caching = 50 K-bytes (default)
Total memory used up for Cache = 4271 Bytes
Message response timeout = 10 secs
Total cached entries = 2
Total non-cached entries = 0
Cached entries
=====
entry 135, 2 entries
Ref  FreshTime  Age          Size          context
---  -
0    121393      557          1419          0
url: http://10.1.200.21/vxml/menu_main.vxml
1    121447      13           2119          0
url: https://10.1.200.21/catalog/advance.vxml
```

以下は、`http client cache query` コマンドで HTTP サーバーから返されたクエリデータのキャッシングが有効に設定されている場合の、このコマンドの出力例です。発信者のプライバシーを保護するため、URL 属性値はアスタリスク (*) でマスクされている点に注意してください。

```
Router# show http client cache
HTTP Client cached information
=====
Maximum memory pool allowed for HTTP Client caching = 10000 K-bytes (default)
Maximum file size allowed for caching = 50 K-bytes (default)
Total memory used up for Cache = 5382 Bytes
Message response timeout = 10 secs
Total cached entries = 4
Total non-cached entries = 0
Cached entries
=====
entry 135, 2 entries
Ref FreshTime Age Size context
---
0 121393 577 1419 0
url: http://10.1.200.21/vxml/menu_main.vxml
1 121447 13 2119 0
url: https://10.1.200.21/catalog/advance.vxml
entry 170, 2 entries
Ref FreshTime Age Size context
---
0 86400 709 478 67117ABC
url: https://www.somebankurl.com/scripts/login.php?user=*****&password=***
0 86400 528 478 686324C4
url: https://www.somebankurl.com/scripts/login.php?user=*****&password=*****
```

下の表に、このコマンド出力で表示されるフィールドの説明を示します。

表 7: `show http client cache` のフィールドの説明

フィールド	説明
Maximum memory pool allowed for HTTP Client caching	HTTP クライアントがキャッシュされたエントリの保存に利用できるメモリの最大容量 (KB 単位)。この値の設定は、 http client cache memory コマンドで行います。
Maximum file size allowed for caching	キャッシュできるファイルの最大サイズ (KB 単位)。この上限を超えるファイルはキャッシュできません。この値の設定は、 http client cache memory コマンドで行います。
Total memory used up for Cache	<p>キャッシュされたエントリの保存に現在使用されている合計メモリ用量 (KB 単位)。</p> <p>(注) 場合によっては、サイズの大きなファイルは 2 回のプロセスに分けてキャッシングされることがあります。このフィールドの値には、HTTP クライアントプロセスでキャッシングされたファイルの一部のみが示されているため、ここで表示される数値は実際のファイルサイズよりも小さい可能性があります。</p>

フィールド	説明
Total cached entries	キャッシュされたエントリの合計数。
Total non-cached entries	現在キャッシュされていない、1回限り使用された一時的な HTTP エントリの合計数。
Cached table entry	キャッシュテーブルエントリのインデックスマーカー。各キャッシュテーブルエントリには、要求およびキャッシュされた複数の URL が含まれる場合があります。
number of cached entries	キャッシュテーブルエントリ内の URL エントリ数。
Request URL	キャッシュされたエントリの URL。
Ref	キャッシュされたエントリがアプリケーションでまだ使用されているかどうか。0 の場合は、当該エントリが解放済みであることを意味します。1 以上の場合は、当該エントリが表示された数のアプリケーションによってまだ使用されていることを意味します。
FreshTime	<p>キャッシュされたエントリの有効期間（秒単位）。エントリの Age がリフレッシュ時間と同じかリフレッシュ時間より古い場合、当該エントリは期限切れとなります。期限切れのキャッシュエントリに対して要求が送信されると、HTTP クライアントはサーバーに更新の条件付き要求を送信します。</p> <p>この値の設定は、HTTP サーバー上で行うか、またはゲートウェイで http client cache refresh コマンドを使用して行えます。</p>
Age	エントリがキャッシュに格納されている時間（秒単位）。
Size	<p>キャッシュされたエントリのサイズ（キロバイト単位）。</p> <p>(注) 場合によっては、サイズの大きなファイルは 2 回のプロセスに分けてキャッシングされることがあります。このフィールドの値には、HTTP クライアントプロセスでキャッシングされたファイルの一部のみが示されているため、ここで表示される数値は実際のファイルサイズよりも小さい可能性があります。</p>

関連コマンド

コマンド	説明
http client cache memory	HTTP クライアントキャッシュを設定します。
http client cache query	HTTP サーバーから返されたクエリデータのキャッシングを有効にします。

コマンド	説明
http client cache refresh	HTTP クライアントキャッシュのリフレッシュ時間を設定します。
http client response timeout	HTTPクライアントサーバーの応答タイムアウトを設定します。
show http client connection	現在の HTTP クライアント接続に関する情報を表示します。

show http client cookie

HTTP クライアントで保存されている Cookie を表示するには、特権 EXEC モードで **show http client cookie** コマンドを使用します。

show http client cookie [*id call-id*]

構文の説明

id call-id	(任意) 指定したコールのみの Cookie を表示します。
-------------------	--------------------------------

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

特定のコールの Cookie を表示するには、引数 *call-id* を使用します。この引数を使用しなかった場合、このコマンドではすべてのコールの Cookie が表示されます。Cookie はコール継続時間中のみ保存され、コール終了時に関連するすべての Cookie が削除されます。引数 *call-id* を使用して指定したコールがアクティブでない場合、Cookie は表示されず、当該コールがアクティブでないことを示すエラーメッセージが表示されます。

アクティブコールの *call-id* を表示するには、**show call active voice brief** コマンドを使用します。

例

次に、**show http client cookie** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show http client cookie id 144567
HTTP Client Cookies
=====
TestCookieY==password Path=/ Domain=.cisco.com
TestCookieX==username Path=/ Domain=.cisco.com
```

出力には、Cookie の名前、パスおよびドメインが一覧表示されます。フィールドの説明は自明のため省略します。

関連コマンド

Command	Description
debug http client cookie	HTTP Cookie に関連するデバッグトレースを表示します。
http client cache memory	HTTP クライアントキャッシュのメモリ制限を設定します。
http client cache refresh	HTTP クライアントキャッシュの更新時間を設定します。
http client cookie	HTTP クライアントによる Cookie の送受信を有効にします。
show call active voice brief	アクティブコールに関するコール要約情報を表示します。

Command	Description
show http client cache	現在の HTTP クライアントキャッシュ情報を表示します。

show http client history

HTTPクライアントからサーバーに対して出された要求のうち直近20件を一覧表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show http client history** コマンドを使用します。

show http client history

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.2(2)XB	このコマンドが Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 に導入されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(11)T に統合され、Cisco 3640 および Cisco 3660 に導入されました。

使用上のガイドライン

HTTP キャッシングの詳細については、準拠している仕様 RFC 2616、*Hypertext Transfer Protocol (HTTP) /1.1* (1999 年 6 月、IETF) を参照してください。

例

次に示されているのはこのコマンドの出力例であり、HTTPクライアントからサーバーへ送られた直近の GET 要求および POST 要求を示しています。

```
Router# show http client history
POST http://example.com/servlets/account
GET http://example.com/GetDigit.vxml
GET http://example.com/form.vxml
GET http://sample.com/menu.vxml
POST http://sample.com/servlets/order
GET http://sample.com/servlets/weather?city=SanFrancisco&state=CA
```

出力には要求のみが表示されます。フィールド見出しは表示されません。

関連コマンド

コマンド	説明
http client cache memory	HTTP クライアントキャッシュを設定します。
http client response timeout	HTTP クライアントサーバーの応答を設定します。
show http client connection	現在の HTTP クライアント接続に関する情報を表示します。

show http client secure status

HTTP クライアントで設定されているトラストポイントおよび暗号スイートを表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show http client secure status** コマンドを使用します。

show http client secure status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(15)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、**http client secure-trustpoint** コマンドと **http client secure-ciphersuite** コマンドで HTTP クライアントに設定されたトラストポイントおよび暗号スイートを表示できます。

例

次の出力例は、トラストポイント myca に 5 つの暗号スイートすべてが設定されていることを示しています。

```
Router# show http client secure status
```

```
HTTP Client Secure Ciphersuite: rc4-128-md5 rc4-128-sha 3des-cbc-sha des-cbc-sha null-md5
HTTP Client Secure Trustpoint: myca
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 8 : show http client secure status のフィールドの説明

フィールド	説明
HTTP Client Secure Ciphersuite	<p>暗号スイート。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 3des_cbc_sha -- トリプル DES (データ暗号化規格) 暗号化および SHA (セキュアハッシュアルゴリズム) 完全性メソッド。 • des_cbc_sha -- DES 暗号化および SHA 完全性メソッド。 • null_md5 -- NULL 暗号化および MD5 (メッセージダイジェストアルゴリズム 5) 完全性メソッド。 • rc4_128_md5 -- RC4 (または ARCFOUR) 暗号化および MD5 完全性メソッド。 • rc4_128_sha -- RC4 暗号化および SHA 完全性メソッド。

フィールド	説明
HTTP Client Secure Trustpoint	トラストポイント名。

関連コマンド

コマンド	説明
http client secure-trustpoint	HTTP クライアントが使用するトラストポイントを宣言します。
http client secure-ciphersuite	HTTP クライアントのセキュアな暗号化暗号スイートを設定します。

show http client statistics

HTTP サーバーとクライアント間の通信に関する情報を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show http client statistics** コマンドを使用します。

show http client statistics

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.4(15)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドで表示されたデータを使用すると、HTTP サーバーとクライアント間のネットワークポロジが適切に設計および構成されているかどうかを判断できます。このコマンドで表示される情報を収集するすべてのカウンタをゼロにリセットするには、**clear http client statistics** コマンドを使用します。

例

次に示すこのコマンドの出力例は、HTTP サーバーとクライアント間の通信に関する統計を表示したものです。

```
Router# show http client statistics
  HTTP Client Statistics:
  =====
Elapsed time: 759962960 msec
Load Count:
  total load count = 6899220
  total byte count = 26028731394
  largest file size = 624742 bytes
  smallest file size = 374 bytes
Server Response Time to Connect:
  longest response to connect = 10484 msec
  shortest response to connect = 24 msec
Server Response Time to Load:
  longest response to load = 11936 msec
  shortest response to load = 20 msec
File Load Time from Server:
  longest load time = 13124 msec
  shortest load time = 56 msec
Server Connection Count:
  max connections = 23
  established connections = 6901185
Load Rate:
  1 hour : 123300000 bytes
  1 min  : 2055000 bytes
  1 sec  : 34250 bytes
  1 msec : 34.25 bytes
Individual Counts:
  app_requests = 8538451
  200_OK_rsp = 8512959
  total_errors = 25492
  app_callbacks = 8538451
  other_rsp = 0
  client_timeouts = 25470
```

```

client_errs = 0
msg_decode_errs = 0
msg_xmit_errs = 15
socket_rcv_errs = 0
retries = 4645
out_of_memory = 0
msg_mallosed = 0
cache_freed_by_ager = 1565

connect_errs/_timeouts = 7
msg_encode_errs = 0
write_Q_full = 0
supported_method_errs = 0
late_responses = 0
mem_reallocs = 1206
event_mallosed = 45

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 9: show http client statistics のフィールドの説明

フィールド	説明
Elapsed time	最初の HTTP 要求からの経過時間（ミリ秒（ms）単位）。
total load count	API イベントの数。
total byte count	API 要求によりサーバーからダウンロードされた合計バイト数。
largest file size smallest file size	サーバーからダウンロードされたファイルの最大サイズおよび最小サイズ（バイト単位）。
longest response to connect shortest response to connect	クライアントから要求されたネットワーク接続をサーバーで確立するのにかかった最長時間および最短時間（ミリ秒単位）。
longest response to load shortest response to load	サーバーがクライアントからのダウンロード要求を実行するまでにかかった最長時間および最短時間（ミリ秒単位）。
longest load time shortest load time	サーバーがファイル全体のダウンロードを完了するまでにかかった最長時間および最短時間（ミリ秒単位）。
max connections	最大同時接続数。
established connections	現在アクティブな接続および過去に確立された接続の数。
Load Rate	ダウンロード速度（バイト/時間、バイト/分、バイト/秒、およびバイト/ミリ秒単位）。
app_requests	GET 要求および POST 要求の数。
app_callbacks	アプリケーションへのコールバックの数。
200_OK_rsp	応答コードが 200 OK または 304 Not Modified であるサーバーメッセージの数。
other_rsp	応答コードが 200 および 304 以外のサーバーメッセージの数。
total_errors	クライアントで発生したエラーの数。

フィールド	説明
client_timeouts	応答タイムアウトなど、クライアントで発生したタイムアウトの数。
client_errs	ソフトウェアエラーなどのクライアント内部エラーの数。
connect_errs/_timeouts	失敗した接続または切断された接続の数。
msg_decode_errs	クライアントがヘッダーのデコードに失敗したサーバー応答メッセージの数。
msg_encode_errs	クライアントがヘッダーのエンコードに失敗した送信メッセージの数。
msg_xmit_errs	クライアントがサーバーへの送信に失敗した送信メッセージの数。
write_Q_full	アプリケーションから要求された送信メッセージをクライアントが送信キューに入れるのに失敗した回数。
socket_rcv_errs	TCPによって返されたソケット読み取りエラーイベントの数。
supported_method_errs	アプリケーションによって要求されたサポートされていないメソッドの数。
retries	再送信されたメッセージの数。
late_responses	正常にデコードされたがタイムアウトを超過したメッセージの数。
out_of_memory	クライアントが Cisco IOS ソフトウェアからのメモリ割り当てに失敗した回数。
mem_reallocs	サーバー応答メッセージのサイズが割り当てられたバッファを超えたために、クライアントがバッファサイズを再調整する必要があった回数。
msg_mallocated	サーバーからのメッセージ受信に現在割り当てられているメッセージバッファ数。
event_mallocated	アプリケーションプログラミングインターフェイス (API) 要求に現在割り当てられているイベントバッファの数。
cache_freed_by_ager	バックグラウンドエージャプロセスによって解放された HTTP クライアント キャッシュ エントリの数。

関連コマンド

コマンド	説明
clear http client statistics	show http client statistics コマンド出力に表示される HTTP サーバーとクライアント間の通信情報の収集元となるすべてのカウンタをゼロにリセットします。

show interface dspfarm

Cisco 7200 シリーズの 2 ポート T1/E1 高密度ポートアダプタに関するデジタルシグナルプロセッサ (DSP) 情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show interface dspfarm** コマンドを使用します。

show interface dspfarm [*{slot/port}*] **dsp** [*{number}*] [*{long | short}*]

構文の説明

<i>slot</i>	(任意) ポートアダプタのスロット位置。
<i>/port</i>	(任意) ポートアダプタのポート番号。
dsp	DSP 情報。
<i>number</i>	(任意) 表示したい DSP セットの数。範囲は 1 ~ 30 です。
long	(任意) DSP の詳細情報。
short	(任意) DSP の概要情報。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.0(5)XE	このコマンドが Cisco 7200 シリーズに導入されました。
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.1(1)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの **show interface dspfarm <x/y | x/y/z> dsp tdm** 形式を使用すると、ローカル時分割多重 (TDM) クロスコネクトマップを表示できます。

例

次に、このコマンドで Cisco 7200 シリーズ ルータのシャーシスロット 3 ポートアダプタスロット 0 を指定した場合の出力例を示します。

```
Router# show interface dspfarm 3/0
DSPfarm3/0 is up, line protocol is up
  Hardware is VXC-2T1/E1
  MTU 256 bytes, BW 12000 Kbit, DLY 0 usec,
    reliability 255/255, txload 4/255, rxload 1/255
  Encapsulation VOICE, loopback not set
  C549 DSP Firmware Version:MajorRelease.MinorRelease (BuildNumber)
    DSP Boot Loader:255.255 (255)
    DSP Application:4.0 (3)
    Medium Complexity Application:3.2 (5)
    High Complexity Application:3.2 (5)
  Total DSPs 30, DSP0-DSP29, Jukebox DSP id 30
  Down DSPs:none
```

```

Total sig channels 120 used 24, total voice channels 120 used 0
  0 active calls, 0 max active calls, 0 total calls
  30887 rx packets, 0 rx drops, 30921 tx packets, 0 tx frags
  0 curr_dsp_tx_queued, 29 max_dsp_tx_queued
Last input never, output never, output hang never
Last clearing of "show interface" counters never
Queueing strategy:fifo
Output queue 0/0, 0 drops; input queue 0/75, 0 drops
5 minute input rate 13000 bits/sec, 94 packets/sec
5 minute output rate 193000 bits/sec, 94 packets/sec
  30887 packets input, 616516 bytes, 0 no buffer
  Received 0 broadcasts, 0 runts, 0 giants, 0 throttles
  0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored, 0 abort
  30921 packets output, 7868892 bytes, 0 underruns
  0 output errors, 0 collisions, 0 interface resets
  0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out

```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 10: show interface dspfarm のフィールドの説明

フィールド	説明
DSPfarm3/0 is up	DSPfarm インターフェイスが動作中です。インターフェイスの状態は、up (動作中)、down (停止中)、または administratively down (管理上停止中) のいずれかです。
Line protocol is	回線プロトコルを取り扱うソフトウェアプロセスが当該回線を使用可能と判定しているか、あるいは回線プロトコルが管理者により停止状態にされているか。
Hardware	ハードウェアのバージョン番号。
MTU	256 バイト。
BW	12000 キロビット。
DLY	インターフェイスの遅延 (マイクロ秒単位)。
Reliability	255 を分母とする分数で表したインターフェイスの信頼性 (255/255 は 100% の信頼性。便宜上、5 分間の平均から算出されます)。
TxLoad	送信パケット数。
Rxload	受信パケット数。
Encapsulation	インターフェイスに割り当てられているカプセル化方式。
Loopback	ループバック状態。
C549 DSP Firmware Version	インストールされている DSP ファームウェアのバージョン。
DSP Boot Loader	DSP ブートローダのバージョン。

フィールド	説明
DSP Application	DSP アプリケーションのコードバージョン。
Medium Complexity Application	DSP 中複雑度アプリケーションのコードバージョン。
High Complexity Application	DSP 高複雑度アプリケーションのコードバージョン。
Total DSPs	PA に備わっている合計 DSP 数。
DSP0-DSP	DSP 番号の範囲。
Jukebox DSP id	Jukebox の DSP 番号。
Down DSPs	非稼働の DSP 数。
Total sig channels...used...	使用されている信号チャネルの合計数。
Total voice channels...used...	使用されている音声チャネルの合計数。
Active calls	アクティブコール数。
Max active calls	アクティブコールの最大数。
Total calls	コールの総数。
Rx packets	受信 (rx) パケット数。
Rx drops	PA でドロップされた rx パケット数。
Tx packets	送信 (tx) パケット数。
Tx frags	フラグメントされた tx パケット数。
Curr_dsp_tx_queued	ホスト DSP キューで待機中の tx パケット数。
Max_dsp_tx_queued	ホスト DSP キューに入れられた合計 tx パケット数の最大値。
Last input	インターフェイスによって最後にパケットが正常に受信されてから経過した時間、分、秒。この情報は、デッドインターフェイスでいつ障害が発生したかを把握する場合に役立ちます。このカウントが更新されるのは、パケットのプロセススイッチング時だけです。パケットのファストスイッチング時には更新されません。
Output	インターフェイスによって最後にパケットが正常に送信されてから経過した時間、分、秒。この情報は、デッドインターフェイスでいつ障害が発生したかを把握する場合に役立ちます。このカウントが更新されるのは、パケットのプロセススイッチング時だけです。パケットのファストスイッチング時には更新されません。

フィールド	説明
Output hang	送信に時間がかかりすぎたためにインターフェイスが最後にリセットされてから経過した時間、分、秒（またはnever）。「last」フィールドの時間数が24時間を超える場合、日数および時間数が表示されます。フィールドがオーバーフローすると、アスタリスク（**）が表示されます。
Last clearing of "show interface" counters	「show interface」カウンタがクリアされた回数。
queueing strategy	先入れ先出しのキューイング方針。場合によって、その他のキューイング方針として priority-list（優先順位リスト）、custom-list（カスタムリスト）および weighted fair（重み付け均等化）が表示されます。
Output queue	出力キュー内のパケット数。
Drops	キューが最大数に達したためにドロップされたパケット数。
Input queue	入力キュー内のパケット数。
Minute input rate	過去5分間において1分あたりに受信した平均ビット数および平均パケット数。
Bits/sec	1秒あたりの平均送信ビット数。
Packets/sec	1秒あたりの平均送信パケット数。
Packets input	システムが受信したエラーのないパケットの総数。
Bytes	システムによって受信されたエラーのないパケットの合計バイト数。データとMACカプセル化を含みます。
No buffer	メインシステムにバッファスペースがないためにドロップされた受信パケット数。ignored カウントと比較します。ほとんどの場合、イーサネットのブロードキャストストームおよびシリアル回線のノイズのバーストが no-input-buffer イベントの原因です。
Received...broadcasts	インターフェイスが受信したブロードキャストまたはマルチキャストパケットの総数。
Runts	当該メディアの最小パケットサイズ未満であるため破棄されたパケットの数。たとえば、64バイトよりも小さいイーサネットパケットはラントと見なされます。
Giants	当該メディアの最大パケットサイズを超過したために破棄されたパケット数。たとえば、1518バイトよりも大きいイーサネットパケットはジャイアントと見なされます。

フィールド	説明
Throttles	バッファまたはプロセッサが過負荷などの理由により、ポート上のレシーバが無効にされた回数。
Input errors	パケット入力エラーの数。
CRC	送信元の LAN ステーションまたは遠端デバイスで生成された巡回冗長検査が、受信データから算出されたチェックサムと一致しません。LAN の場合は通常、LAN インターフェイスまたは LAN バス自体にノイズまたは伝送上の問題があります。CRC の数値が高いことは、通常、コリジョンの結果であるか、ステーションが不良データを送信することが原因です。シリアルリンクでは、CRC は通常ノイズ、利得や、データリンクの他の送信関連の問題を示唆します。
Frame	CRC エラーおよび整数以外のオクテット数を含む、不正な受信パケット数。シリアル回線の場合、通常、これはノイズやその他の転送上の問題による結果です。
Overrun	入力速度がレシーバのデータ処理能力を超えたために、シリアルレシーバハードウェアが受信したデータをハードウェアバッファに格納できなかった回数。
Ignore	インターフェイスハードウェアの内部バッファの容量が少ないために、インターフェイスによって無視された受信パケット数。これらのバッファは、先の buffer の説明で述べたシステムバッファとは異なります。ブロードキャストストームおよびノイズのバーストによって、ignored のカウントが増分する場合があります。
Abort	インターフェイスでの 1 ビットの不正なシーケンス。
Packets output	システムから送信された合計メッセージ数。
Bytes	データおよび MAC カプセル化など、システムが送信した合計バイト数。
Underruns	遠端トランスミッタの動作速度が、近端ルータのレシーバの処理速度を上回った回数。
Output errors	検査するインターフェイスに関し、発信されるデータグラム最終的な送信を妨げたエラーの総数。複数のエラーがあるデータグラムや、特定のカテゴリに分類されないエラーのあるデータグラムもあるため、この値は、列挙された出力エラーの合計と釣り合わない場合があります。

フィールド	説明
Collisions	イーサネットコリジョンが発生したために再送信されたメッセージの数。コリジョンの原因は通常、LANの過剰な延長（イーサネットケーブルまたはトランシーバケーブルが長すぎる、ステーション間にリピータが3台以上設置されている、またはカスケードされたマルチポートトランシーバが多すぎるなど）です。コリジョンを発生させたパケットは、出力パケット内で1回だけカウントされます。
Interface resets	インターフェイスが完全にリセットされた回数。リセットは、送信キューに入れられたパケットが一定間隔内に送信されなかった場合に発生する可能性があります。インターフェイスのキャリア検知ラインがアップになっていながら、回線プロトコルがダウンしていることがシステムで検出された場合、システムではインターフェイスを再起動するための対応として間歇的にリセットをかけます。また、インターフェイスプロセッサで回復不能なエラーが発生した場合や、インターフェイスがループバックまたはシャットダウンされた場合にも、インターフェイスのリセットが発生することがあります。
Output buffer failures	失敗したバッファの数。
Output buffers swapped out	スワップアウトされたバッファ数。

関連コマンド

コマンド	説明
show interfaces	ルータまたはアクセスサーバーで設定されているすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。

show interfaces cable-modem

ケーブルモデムポートに設定されているすべてのインターフェイスの統計を表示し、当該モデムの Hybrid Fiber-Coax (HFC) 統計を定義するには、特権 EXEC モードで **show interfaces cable-modem** コマンドを使用します。

show interfaces cable-modem port

構文の説明	<code>port</code>	ポート番号
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.4(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、モデムの HFC 状態を定義できます。

例

次の例では、モデムの HFC 状態が表示されています。出力結果は、ネットワークに設定されているインターフェイスによって異なります。

```
Router# show interfaces cable-modem 0/1/0

cable-modem0/1/0 is up, line protocol is up
  HFC state is OPERATIONAL, HFC MAC address is 00d0.59e1.2073
  Hardware is Cable modem, address is 0014.f26d.10b2 (bia 0014.f26d.10b2)
  Internet address is 00.0.0.01/1
  MTU 1500 bytes, BW 1544 Kbit, DLY 6470 usec,
    reliability 255/255, txload 247/255, rxload 246/255
  Encapsulation ARPA, loopback not set
  ARP type: ARPA, ARP Timeout 04:00:00
  Last input 00:00:01, output 00:00:00, output hang never
  Last clearing of "show interface" counters 00:07:03
  Input queue: 0/75/0/0 (size/max/drops/flushes); Total output drops: 83594
  Queueing strategy: Class-based queueing
  Output queue: 61/1000/64/83594 (size/max total/threshold/drops)
    Conversations 2/5/256 (active/max active/max total)
    Reserved Conversations 0/0 (allocated/max allocated)
    Available Bandwidth 232 kilobits/sec
  30 second input rate 2581000 bits/sec, 987 packets/sec
  30 second output rate 1585000 bits/sec, 639 packets/sec
  HFC input: 0 errors, 0 discards, 0 unknown protocols 0 flow control discards
  HFC output: 0 errors, 0 discards
    304582 packets input, 105339474 bytes, 0 no buffer
    Received 0 broadcasts, 0 runts, 0 giants, 1 throttles
    0 input errors, 0 CRC, 0 frame, 0 overrun, 0 ignored
    0 input packets with dribble condition detected
    228195 packets output, 78392605 bytes, 0 underruns
    0 output errors, 0 collisions, 1 interface resets
    0 babbles, 0 late collision, 0 deferred
    0 lost carrier, 0 no carrier
    0 output buffer failures, 0 output buffers swapped out
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 11 : *show interfaces cable-modem* のフィールドの説明

HFC 状態を示す各値	説明
HFC state is OPERATIONAL	当該モデムの現在の HFC 状態。
HFC MAC address	このモデムの HFC MAC アドレス。
Hardware is Cable modem	ハードウェアタイプ。
Internet address	このモデムの IP アドレス。
MTU	バイト、キロビット、ユーザー秒の各単位で示される、合計 MTU 使用量。信頼性、送信負荷および受信負荷を示します。
Encapsulation ARPA, loopback not set	カプセル化のタイプ、およびループバックが設定されているかどうか。
ARP type: ARPA, ARP Timeout	ARP のタイプ、および各種タイムアウトパラメータ。
Last input, output, output hang	最新の入出力統計。
Last clearing of "show interface" counters	show interface コマンドカウンタの直近の使用。
Input queue, Total output drops	size/max/drops/flushes (サイズ/最大/ドロップ回数/消去回数) の形式で示される、入力キューと出力ドロップの統計。
Queueing strategy: Class-based queueing	キューイングのタイプ。この場合は、クラスベースのキューイング。
Output queue	size/max total/threshold/drops (サイズ/最大合計/しきい値/ドロップ回数) の形式で示される、出力キューの統計。
Conversations	active/max active/max total (アクティブ/最大アクティブ/最大合計) の形式で示される、メッセージ交換のタイプと数。
Reserved Conversations	allocated/max allocated (割り当て済み/割り当て最大数) の形式で示される、予約済みメッセージ交換の数。
Available Bandwidth	割り当てられた帯域幅 (キロビット/秒単位) 。
input rate, packets	入力レート (ビット数/秒単位) およびパケット数 (パケット数/秒単位) 。

HFC 状態を示す各値	説明
output rate, packets	出力レート（ビット数/秒単位）およびパケット数（パケット数/秒単位）。
HFC input, output	errors, discards, unknown protocols, flow control discards（エラー数、破棄数、不明なプロトコル数、フロー制御破棄数）の形式で示される、HFC 入力統計。
packets input	パケット数（バイト単位）およびバッファの有無。
Received broadcasts, runts, giants, throttles	ブロードキャスト数、ランツ数、ジャイアント数、およびスロットル数。
input errors	CRC, frame, overrun, ignored（巡回冗長検査（CRC）、フレーム、オーバーラン、無視）の形式で示される、入力エラー数と入力エラータイプ。
packets output	バイト単位およびアンダーラン数で示される、パケット出力数。
output errors, collisions, interface resets	出力エラー数、コリジョン数、およびインターフェイスリセット数。
babbles, late collision, deferred	バブル数、レイトコリジョン数、および保留中パケット数。
lost carrier, no carrier	キャリア統計。
output buffer failures, output buffers swapped out	バッファ統計。

HFC 状態は、ケーブルモデム終端システム（CMTS）へのケーブルモデム接続の Data Over Cable Service Interface Specification（DOCSIS）状態を指します。次の表で、HFC 状態の各値を説明します。

表 12: HFC 状態を示す各値

HFC 状態を示す各値	説明
NOT_READY	ケーブルモデムコントローラをリセット中です。
NOT_SYNCHRONIZED	ケーブルモデムコントローラがダウンストリーム周波数のスキャンを開始中です。
PHY_SYNCHRONIZED	ケーブルモデムコントローラがダウンストリーム信号をロック済みであり、アップストリームチャンネルのパラメータ情報を収集中です。

HFC 状態を示す各値	説明
US_PARAMETERS_ACQUIRED	ケーブルモデムコントローラがアップストリームチャネルのパラメータ情報を収集済みであり、アップストリーム周波数のロックを試行しています。
RANGING_COMPLETE	ケーブルモデムコントローラが、CMTS 範囲応答を受信してダウンストリーム/アップストリームのロックプロセスを終了済みであり、現在 IP の初期化を実行中です。
IP_COMPLETE	ケーブルモデムコントローラが IP 情報を取得済みです。
WAITING_FOR_DHCP_OFFER	ケーブルモデムコントローラが Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) 要求を CMTS に送信中です。
WAITING_FOR_DHCP_RESPONSE	ケーブルモデムコントローラが CMTS からの DHCP 応答を待機中です。
WAITING_FOR_TIME_SERVER	ケーブルモデムコントローラが時刻 (ToD) サービスを開始中です。
TOD_ESTABLISHED	ケーブルモデムコントローラが ToD パケットを受信し、ローカル時刻の同期を完了しました。
WAITING_FOR_TFTP	ケーブルモデムコントローラが、CMTS で定義された TFTP サーバーから実行コンフィギュレーションをダウンロード中です。
PARAM_TRANSFER_COMPLETE	ケーブルモデムコントローラが、実行コンフィギュレーションの転送を完了しました。
REGISTRATION_COMPLETE	ケーブルモデムコントローラが登録要求を送信し、CMTS が登録要求を受け入れました。
REFUSED_BY_CMTS	ケーブルモデムコントローラの登録要求が CMTS によって拒否されました。
FORWARDING_DENIED	ケーブルモデムコントローラの CMTS 登録に成功しましたが、実行コンフィギュレーションでネットワークアクセスが無効になっています。
OPERATIONAL	ケーブルモデムコントローラのサービス準備が完了しました。
UNKNOWN	ケーブルモデムコントローラが未定義の状態です

次の表に、各入力エラーの説明を示します。

表 13: 入力エラーの説明

入力エラー	説明
errors	当該ケーブルモデムコントローラで破棄された入力パケットの合計数。
discards	一時的なリソース不足が原因で破棄された入力パケットの数。
unknown protocols	サポートされていないプロトコル値または不明なプロトコル値を含んでいたことが原因で破棄された入力パケットの数。
flow control discards	ケーブルモデムコントローラがルータへのパケット転送中にオーバーフローしたことが原因で破棄された入力パケットの数。

次の表に、各出力エラーの説明を示します。

表 14: 出力エラーの説明

出力エラー	説明
errors	当該ケーブルモデムコントローラで破棄された出力パケットの合計数。
discards	一時的なリソース不足が原因で破棄された出力パケットの数。

関連コマンド

コマンド	説明
show interfaces	すべてのインターフェイスの統計を表示します。

show ip address trusted check

VoIP 送信元からのコールセットアップの信頼性を確認するには、特権 EXEC モードで **show ip address trusted check** コマンドを使用します。

show ip address trusted check {IPv4 address IPv6 address}

構文の説明	IPv4 address/IPv6 address	コールセットアップを開始した VoIP 送信元の IP アドレス。
-------	---------------------------	-----------------------------------

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	IOS XE Fuji リリース 16.8.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 不正通話防止機能の **show ip address trusted check** コマンドを使用すると、着信 H.323 トランクコールまたは着信 SIP トランクコールの信頼性を確認できます。IP アドレスの認証によって、着信コールの信頼性が検証されます。

このコマンドは信頼できる IP アドレスリストをチェックし、エントリが送信元 IP アドレスと一致した場合に認証が成功します。信頼できる IP アドレスリストを表示するには、特権 EXEC モードで **show ip address trusted list** コマンドを使用します。

例

次に、VoIP 送信元 15.1.0.1 で IP アドレス認証が成功した例を示します。

```
Router# show ip address trusted check 15.1.0.1
ip[15.1.0.1] authenticate is PASSED by peer ip addr
```

次に、VoIP 送信元 15.3.0.1 で IP アドレス認証が失敗した例を示します。

```
Router# show ip address trusted check 15.3.0.1
ip[15.3.0.1] authentication is FAILED!
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show ip address trusted list	信頼できる IP アドレスリストを表示します。
	ip address trusted	デバイスで不正通話防止機能を有効にします。

show iua as

アプリケーションサーバー (AS) の現在の状態に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show iua as** コマンドを使用します。

show iua as {all | name *as-name*}

構文の説明	all	設定済みのすべての AS に関する情報を出力表示します。
	name <i>as -name</i>	特定の AS 名。指定した AS のみに関する情報を出力表示します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(4)T	このコマンドが導入されました。
	12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。このリリースでは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていません。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco 2420、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3700 シリーズ、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 に導入されました。

使用上のガイドライン **show iua as all** コマンドを使用すると、フェールオーバータイマーの値を表示できます。フェールオーバータイマー値を使用するアプリケーションに合わせて変更する前に、現在のフェールオーバータイマー値を知っておく必要があります。

例

次に示すこのコマンドの出力例では、AS (as1) の現在の状態はアクティブであり、4 つの PRI インターフェイスでこの AS を使用するよう設定されていることが示されています。

```
Router# show iua as all
Name of AS :as1
  Total num of ASPs configured :2
    asp1
    asp2
  Current state : ACTIVE
  Active ASP :asp1
  Number of ASPs up :1
  Fail-Over time : 4000 milliseconds
  Local address list : 10.1.2.345 10.2.3.456
  Local port:2139
  Interface IDs registered with this AS
    Interface ID
    0 (Dchannel0)
    3 (Dchannel3)
```

2 (Dchannel2)

1 (Dchannel1)

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 15: show iua as all のフィールドの説明

フィールド	説明
Name of AS: 1	AS 名。
Total num of ASPs configured :2 asp1 asp2	設定済みのアプリケーション サーバー プロセス (ASP) の総数。
Current state : ACTIVE	ACTIVE (アクティブ)、INACTIVE (非アクティブ)、または DOWN (停止中) のいずれかの状態が表示されます。
Active ASP :asp1	アクティブな ASP が表示されます。
Number of ASPs up :1	稼働中の ASP が 2 つある場合は、アクティブでない方の ASP はスタンバイモードであることを示します。
Fail-Over time : 4000 milliseconds	デフォルト値は 4000 ミリ秒ですが、この値は AS の CLI で設定することもできます。
Local address list : 10.1.2.345 10.2.3.456	ユーザーが設定します。
Local port:2139	ユーザーが設定します。
Interface IDs registered with this AS Interface id 0 (Dchannel0) 3 (Dchannel3) 2 (Dchannel2) 1 (Dchannel1)	この AS にバインドされている D チャネル。

関連コマンド

コマンド	説明
clear ip sctp statistics	SCTP の統計カウンタをクリアします。
show ip sctp association list	現在の SCTP の関連付けをすべて一覧表示します。
show ip sctp association parameters	関連付け ID で定義された関連付けに設定されている各種パラメータを表示します。
show ip sctp association statistics	関連付け ID で定義された関連付けの現在の統計を表示します。

コマンド	説明
show ip sctp errors	SCTP で記録されたエラー数を表示します。
show ip sctp instances	現在定義されている SCTP インスタンスを表示します。
show ip sctp statistics	当該SCTPの全体的な統計情報のカウントを表示します。
show isdn	メモリ、レイヤ2タイマー、レイヤ3タイマー、およびPRIチャンネルのステータスに関する情報を表示します。
show iua asp	ASPの現在の状態に関する情報を表示します。

show iua asp

アプリケーション サーバー プロセス (ASP) の現在の状態に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show iua asp** コマンドを使用します。

show iua asp {all | name *asp-name*}

構文の説明		
	all	設定済みのすべての ASP に関する情報を表示します。
	name <i>asp-name</i>	特定の ASP 名。指定した ASP のみに関する情報を表示します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(4)T	このコマンドが導入されました。
	12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。このリリースでは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていません。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 で実装されました。
	12.2(15)T	Cisco 2420、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3700 シリーズ、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5850 ネットワーク アクセス サーバー (NAS) の各プラットフォームにおいて、このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(15)T と統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、ストリーム制御伝送プロトコル (SCTP) アソシエーションを確立します。1 つのアプリケーションサーバー (AS) に設定できる ASP は最大 2 つのみです。

例

次に示すコマンド **show iua asp all** の一般的な出力では、ASP (*asp1*) の現在の状態がアクティブであることが示されています。このコマンドでは、この ASP で使用中の SCTP アソシエーションに関する情報も表示されます。

```
Router# show iua asp all
Name of ASP :asp1
Current State of ASP:ASP-Active
Current state of underlying SCTP Association IUA_ASSOC_ESTAB , assoc id 0
SCTP Association information :
    Local Receive window :9000
    Remote Receive window :9000
    Primary Dest address requested by IUA 10.11.2.33
    Effective Primary Dest address 10.11.2.33
Remote address list :10.22.3.44
Remote Port :9900
Statistics :
```

```
Invalid Sctp signals Total :0 Since last 0
Sctp Send failures :0
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 16: *show iua asp all* のフィールドの説明

フィールド	説明
Name of ASP: 1	アプリケーション サーバー プロセス (ASP) の名前。
Current State of ASP: ASP-Active	ACTIVE (アクティブ)、INACTIVE (非アクティブ)、または DOWN (停止中) のいずれかの状態が表示されます。
Current state of underlying Sctp Association IUA_ASSOC_ESTAB, assoc id 0	基盤となる Sctp アソシエーションに表示される状態は次のいずれかです: IUA_ASSOC_ESTAB (アソシエーション確立済み) または IUA_ASSOC_INIT (アソシエーション未確立... 開始を試みています)。
Sctp Association information : Local Receive window :9000 Remote Receive window :9000	ユーザーが設定します。
Primary Dest address requested by IUA 10.11.2.33	現在のリンクの確立に使用されている IP アドレス。
Remote address list :10.22.3.44 Remote Port :9900	ユーザーが設定します。
Statistics : Invalid Sctp signals Total :0 Since last 0 Sctp Send failures :0	Sctp 接続でエラーが発生しているかどうかを確認するために役立つ情報。

関連コマンド

コマンド	説明
clear ip sctp statistics	Sctp の統計カウンタをクリアします。
show ip sctp association list	現在の Sctp の関連付けをすべて一覧表示します。
show ip sctp association parameters	関連付け ID で定義された関連付けに設定されている各種パラメータを表示します。
show ip sctp association statistics	関連付け ID で定義された関連付けの現在の統計を表示します。

コマンド	説明
show ip sctp errors	SCTP で記録されたエラー数を表示します。
show ip sctp instances	現在定義されている SCTP インスタンスを表示します。
show ip sctp statistics	当該 SCTP の全体的な統計情報のカウントを表示します。
show iua as	AS の現在の状態に関する情報を表示します。

show media-proxy sessions

CUBE メディアプロキシ上のアクティブまたは完了済みの SIP 録音セッションに関する詳細を表示するには、特権 EXEC モードで **show media-proxy sessions** コマンドを使用します。

show media-proxy sessions [**summary** [**history**] | **call-id** *call-id* | **session-id** *WORD* | **metadata-session-id** *x-session-id*]

構文の説明		
	summary	(任意) アクティブな SIP 録音セッションの要約を表示します。
	history	(任意) 完了済みの SIP 録音セッションの要約を表示します。
	call-id <i>call-id</i>	(任意) SIP レッグの指定した CCAPI コール識別子に関連付けられている、着信レッグおよびフォークされたレッグに関する詳細を表示します。
	session-id <i>WORD</i>	(任意) 指定したセッション ID に関連付けられているメディアプロキシ記録セッションの詳細を表示します。
	metadata-session-id <i>x-session-id</i>	(任意) CUCM から送信される INVITE の「From」ヘッダーにある <i>x-session-id</i> に関連付けられている、メディアプロキシ録音セッションの詳細を表示します。

コマンド デフォルト アクティブな記録セッションの詳細を表示します。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar リリース 16.10.1a	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1a	show media-proxy sessions コマンドの出力が変更され、「SIPREC」フィールドが含まれるようになりました。

使用上のガイドライン **show media-proxy sessions** コマンドを使用すると、着信コール ID、フォークされたコール ID、セッション ID、ダイヤルピアタグ、IP、ポート番号、合計セッション数や失敗した録音セッションなど、録音セッションに関する詳細情報を表示できます。

また、特定の SIP レッグコール ID の詳細を取得することもできます。MSP コール ID は、このコマンドの有効な値ではありません。

例

次に、**show media-proxy sessions** コマンドの出力例を示します。

Device# show media-proxy sessions

No.	Call-ID Inbound/Forked	Session-ID LocalUuid;RemoteUuid	Dialpeer Tag	Secure (Y/N)	SIPREC (Y/N)
1	36770/-	a234a20672ce596d969c59ee9767f127; aaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaa	3	N	Y

次の例は、アクティブな録音セッションの詳細を表示したものです。

Device# show media-proxy sessions summary

No	Inbound/Forked	Dialpeer-Tag	IP:Port	Total/Failed
1	Forked	100	ipv4:8.0.0.200:6680	2/0
2	Forked	200	ipv4:8.0.0.200:6220	2/0
3	Inbound	5678		2/0

次の例は、完了済みの録音セッションの詳細を表示したものです。

Device# show media-proxy sessions summary history

No.	Inbound/Forked	Dialpeer Tag	IP:Port	Total/Failed
1	Inbound	5678		2/0
2	Forked	100	ipv4:8.0.0.200:6680	2/0
3	Forked	200	ipv4:8.0.0.200:6220	2/0

次の例は、指定した SIP レッグコール ID の詳細を表示したものです。

Device# show media-proxy sessions call-id 2

```
CC Call-ID: 1 Inbound-leg
Dur: 00:00:15 tx: 0/0 rx: 1484/296800 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6009 Local-Addr: 8.43.33.203:8000 rtt:0ms pl:0/0ms
Dialpeer-Tag: 100 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9 RemoteUUID: aaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaa

CC Call-ID: 2 Forked-leg (Primary)
Dur: 00:00:15 tx: 1484/296800 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6000 Local-Addr: 8.43.33.203:8002 rtt:0ms pl:0/0ms
Dialpeer-Tag: 200 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb RemoteUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9

CC Call-ID: 7 Forked-leg
Dur: 00:00:15 tx: 1480/296000 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6001 Local-Addr: 8.43.33.203:8004 rtt:0ms pl:0/0ms
Dialpeer-Tag: 300 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: ccccccccccccccccccccccccccccccccc RemoteUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9

CC Call-ID: 9 Forked-leg
Dur: 00:00:15 tx: 1479/295800 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6004 Local-Addr: 8.43.33.203:8006 rtt:0ms pl:0/0ms
Dialpeer-Tag: 400 Negotiated-Codec: g711ulaw
```

```

SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: ccccccccccccccccccccccccccccccccc RemoteUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9

CC Call-ID: 11 Forked-leg
Dur: 00:00:15 tx: 1479/295800 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6005 Local-Addr: 8.43.33.203:8008 rtt:0ms pl:0/0ms
Dialpeer-Tag: 500 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: ccccccccccccccccccccccccccccccccc RemoteUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9

CC Call-ID: 13 Forked-leg
Dur: 00:00:15 tx: 1479/295800 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6008 Local-Addr: 8.43.33.203:8010 rtt:0ms pl:0/0ms
Dialpeer-Tag: 600 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: ccccccccccccccccccccccccccccccccc RemoteUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9

```

次の例は、指定したセッション ID の詳細を示しています。

```

Device# show media-proxy sessions session-id 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9
CC Call-ID: 1 Inbound-leg
Dur: 00:00:15 tx: 0/0 rx: 1484/296800 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6009 Local-Addr: 8.43.33.203:8000 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 100 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9 RemoteUUID: aaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaa

CC Call-ID: 2 Forked-leg (Primary)
Dur: 00:00:15 tx: 1484/296800 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6000 Local-Addr: 8.43.33.203:8002 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 200 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb RemoteUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9

CC Call-ID: 7 Forked-leg
Dur: 00:00:15 tx: 1480/296000 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6001 Local-Addr: 8.43.33.203:8004 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 300 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: ccccccccccccccccccccccccccccccccc RemoteUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9

CC Call-ID: 9 Forked-leg
Dur: 00:00:15 tx: 1479/295800 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6004 Local-Addr: 8.43.33.203:8006 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 400 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: ccccccccccccccccccccccccccccccccc RemoteUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9

CC Call-ID: 11 Forked-leg
Dur: 00:00:15 tx: 1479/295800 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6005 Local-Addr: 8.43.33.203:8008 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 500 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: ccccccccccccccccccccccccccccccccc RemoteUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9

CC Call-ID: 13 Forked-leg
Dur: 00:00:15 tx: 1479/295800 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.41.17.71:6008 Local-Addr: 8.43.33.203:8010 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 600 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: ccccccccccccccccccccccccccccccccc RemoteUUID: 6bde661e9767590b930f3427ad6e94e9

```

次の例は、CUCMから送信されるINVITEの「From」ヘッダーにあるx-session-idに基づいて、メディアプロキシ録音セッションの詳細を表示したものです。

```
Device# show media-proxy sessions metadata-session-id 696dd5d3f7755c6abdc438e93d01febfb
CC Call-ID: 77 Inbound-leg
Dur: 00:00:46 tx: 0/0 rx: 3105/578880 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.0.0.200:8010 Local-Addr: 8.43.33.203:8048 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 1 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: 528b282b804c5fd098eaba3696c00de2 RemoteUUID: aaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaaa

CC Call-ID: 78 Forked-leg (Primary)
Dur: 00:00:46 tx: 3105/578880 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.0.0.200:8014 Local-Addr: 8.43.33.203:8050 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 2 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb RemoteUUID: 528b282b804c5fd098eaba3696c00de2

CC Call-ID: 84 Forked-leg
Dur: 00:00:46 tx: 3100/577880 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.0.0.200:8018 Local-Addr: 8.43.33.203:8052 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 3 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb RemoteUUID: 528b282b804c5fd098eaba3696c00de2

CC Call-ID: 86 Forked-leg
Dur: 00:00:46 tx: 3101/578080 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.0.0.200:8022 Local-Addr: 8.43.33.203:8054 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 4 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb RemoteUUID: 528b282b804c5fd098eaba3696c00de2

CC Call-ID: 88 Forked-leg
Dur: 00:00:46 tx: 3101/578080 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.0.0.200:8026 Local-Addr: 8.43.33.203:8056 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 5 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb RemoteUUID: 528b282b804c5fd098eaba3696c00de2

CC Call-ID: 91 Forked-leg
Dur: 00:00:46 tx: 3101/578080 rx: 0/0 lost: 0/0/0 delay: 0/0/0ms
Remote-Addr: 8.0.0.200:8030 Local-Addr: 8.43.33.203:8058 rtt: 0ms pl: 0/0ms
Dialpeer-Tag: 6 Negotiated-Codec: g711ulaw
SRTP-Status: off SRTP-Cipher: NA
LocalUUID: bbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbbb RemoteUUID: 528b282b804c5fd098eaba3696c00de2
```

show media resource status

現在のメディアリソースのステータスを表示するには、特権EXECモードで **show media resource status** コマンドを使用します。

show media resource status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(8)T	このコマンドが導入されました。

例

次の例は、現在のメディアリソースのステータスを表示したものです。

```
Router# show media resource status
Resource Providers:
Resource Provider ID :: FLEX_DSPRM Status :: REGISTERED
Service Profiles
MTP ::
TRANSCODING :: 6 11
CONFERENCING :: 10
Applications :
Application ID : SCCP, Status : REGISTERED
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 17: show media resource status のフィールドの説明

フィールド	説明
MTP	MTP リソースに設定されているプロファイル番号を表示します。
TRANSCODING	トランスコーディングリソースに設定されているプロファイル番号を表示します。
CONFERENCING	会議リソースに設定されているプロファイル番号を表示します。
Status	当該プロファイルの現在のステータスを表示します。

関連コマンド

コマンド	説明
dsp services dspfarm	指定した音声カードに対する DSP ファームサービスを設定します。
dspfarm profile	DSP ファームプロファイルコンフィギュレーションモードを開始し、DSP ファームサービス用のプロファイルを定義します。

コマンド	説明
show dspfarm profile	Cisco CallManager グループで設定されている DSP ファームプロファイルの情報を表示します。

show mediacard

メディアカードの会議、トランスコーディング、メディアターミネーションポイント (MTP) およびデジタルシグナルプロセッサ (DSP) に関する設定情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show mediacard** コマンドを使用します。

show mediacard slot [{**conference** | **connections** | **dsp number**}]

構文の説明	
<i>slot</i>	表示したいカードのスロット番号を指定します。有効値の範囲は 1 ~ 4 です。
conference	(任意) アドホック会議に関する情報を表示します。
connections	(任意) メディアカードの接続に関する情報を表示します。
dsp number	(任意) 指定した DSP リソースプールに関する情報を表示します。 <i>number</i> 引数に入力できる値の範囲は 1 ~ 4 です。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.3(8)XY	このコマンドがコミュニケーションメディアモジュールに導入されました。
	12.3(14)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.3(14)T に統合されました。
	12.4(3)	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.4(3) に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、メディアカードのステータス、統計および設定情報を表示できます。

例

次に、**show mediacard** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show mediacard 3
Media Card 3: WS-SVC-CMM-ACT
Service: Adhoc/Meetme conference and MTP/Transcoding
State: ENABLE
DSP image version (all DSPs): 1.1(06), build: 1.1(06)
DSP status:
  DSP 1 | DSP 2 | DSP 3 | DSP 4
  -----|-----|-----|-----
  alive | alive | alive | alive
Total 128 DSP channels, 1 active
Resource pools                | DSPs | Used by Active profile
-----|-----|-----
Pool1                          | 2    | 1
Pool2                          | 1    |
Pool3                          | 1    | 2
```

```

Router# show mediacard 3 dsp 3
DSP image version (all DSPs): 1.1(06), build: 1.1(06)
Card DSP status Chan status RxPkts TxPkts
 3 3 alive 1 idle - -
 2 idle - -
 3 idle - -
 4 idle - -
 5 idle - -
 6 idle - -
 7 idle - -
 8 idle - -
 9 idle - -
10 idle - -
11 idle - -
12 idle - -
13 idle - -
14 idle - -
15 idle - -
16 idle - -
17 idle - -
18 idle - -
19 idle - -
20 idle - -
21 idle - -
22 idle - -
23 idle - -
24 idle - -
25 idle - -
26 idle - -
27 idle - -
28 idle - -
29 idle - -
30 idle - -
31 idle - -
32 idle - -

Total 32 DSP channels, 0 active

```

```

Router# show mediacard conference
Id Slot/ RxPkts TxPkts RPort SPort Remote-IP
   DSP/Ch
0 2/4/1 32024 16498 27004 27020 10.7.16.87
0 2/4/2 17368 17192 17582 17583 10.7.16.80
0 2/4/3 21904 16990 26155 26168 10.7.16.94
Total: 3

```

```

Router# show mediacard connections
Id Type Slot/ RxPkts TxPkts RPort SPort Remote-IP
   DSP/Ch
0 conf 3/4/1 24028 16552 0 0 10.7.16.87
Total: 1

```

```

Router# show mediacard connections
Id Type Slot/ RxPktsTxPktsRPort SPort Remote-IP
   DSP/Ch
0 mtp 3/1/1 16544 16488 1046 1046 10.1.2.15
0 mtp 3/1/2 19396 19662 1046 1046 10.1.80.50
0 mtp 3/1/3 17562 20122 626 626 10.1.2.15
0 mtp 3/1/4 17488 17328 626 626 10.1.80.5

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 18: show mediacard のフィールドの説明

フィールド	説明
RxPkts	送信パケット数

フィールド	説明
TxPkts	受信パケット数
RPort	受信側のポート
SPort	送信側のポート
Remote-IP	リモートエンドポイントの IP アドレス

関連コマンド

コマンド	説明
debug mediacard	DSPRM のデバッグ情報を表示します。

show mgcp

各種 Media Gateway Control Protocol (MGCP) パラメータの値を表示するには、ユーザー EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show mgcp** コマンドを使用します。

show mgcp [{**connection** | **endpoint** | **nas** {**dump slot port chan-number** | **info**} | **notify-entity** | **profile** [*name*] | **statistics**}]

構文の説明	
connection	(任意) アクティブな MGCP 制御接続を表示します。
endpoint	(任意) MGCP 制御エンドポイントを表示します。
nas	(任意) ネットワーク アクセス サーバー (NAS) の情報を表示します。
dump	(任意) MGCP データチャネルのデータを表示します。
<i>slot</i>	(任意) スロット番号。
<i>port</i>	(任意) ポート番号です。
<i>chan-number</i>	(任意) チャネル番号。
info	(任意) MGCP データチャネルの情報を表示します。
notify-entity	(任意) MGCP 通知エンティティの情報を表示します。
profile [<i>name</i>]	(任意) 設定されたすべての MGCP プロファイルに関する情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>name</i> -- 指定した MGCP プロファイルに関する情報を表示します。
statistics	(任意) 送受信したネットワークメッセージに関する MGCP 統計情報を表示します。

コマンドモード ユーザー EXEC (>) 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.1(1)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
	12.1(3)T	このコマンドが変更されました。コマンド出力が更新され、ゲートウェイおよびプラットフォームの追加情報が表示されるようになりました。
	12.1(5)XM	このコマンドが変更されました。コマンド出力が更新され、ゲートウェイおよびプラットフォームの追加情報が表示されるようになりました。
	12.2(2)T	このコマンドが Cisco 7200 シリーズに導入されました。

リリース	変更内容
12.2(2)XA	このコマンドが変更されました。 profile キーワードが追加されました。
12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB	<p>このコマンドが変更されました。コマンドの出力が拡張され、MGCP のシステムリソースチェック (SRC) コールアドミッション制御 (CAC) 、およびサービス保証エージェント (SA エージェント) CAC の各ステータスが表示されるようになりました。(Cisco IOS リリース 12.2(2) XB のドキュメント『MGCP VoIP コールアドミッションコントロール』を参照してください。)</p> <p>nas dump slot port channel および nas info の各キーワードおよび引数が追加されました。キーワードの数が増えたため、show mgcp コマンドのコマンドページは次の各コマンドページに分割されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • show mgcp • show mgcp connection • show mgcp endpoint • show mgcp nas • show mgcp profile • show mgcp statistics
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。
12.2(2)XN	このコマンドが変更されました。拡張された MGCP 音声ゲートウェイの相互運用性のサポートが、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズおよび Cisco VG200 の各種ルータの Cisco CallManager バージョン 3.1 に追加されました。
12.2(11)T	このコマンドは Cisco IOS リリース 12.2(11)T および Cisco CallManager バージョン 2.0 に統合され、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5850 および Cisco IAD2420 シリーズに導入されました。MGCP SGCP RSIP フィールドが拡張され、 mgcp sgcp disconnected notify コマンドのステータスが表示されるようになりました。
12.2(13)T	このコマンドが変更されました。MGCP のサポートが追加されました。
12.2(15)T	このコマンドが Cisco 1751 および Cisco 1760 の各種ルータに導入されました。
12.2(15)ZJ	このコマンドが Cisco 26xxXM、Cisco 2691、Cisco 3640、Cisco 3640A、Cisco 3660 および Cisco 37xx の各種ルータの Cisco IOS リリース 12.2(15)ZJ に統合されました。
12.3(2)T	このコマンドが Cisco 26xxXM、Cisco 2691、Cisco 3640、Cisco 3640A、Cisco 3660 および Cisco 37xx の各種ルータに導入されました。

リリース	変更内容
12.3(11)T	このコマンドが変更されました。コマンド出力が拡張され、有効になっている Secure Real-Time Transport Protocol (SRTP) パッケージおよび MGCP コールエージェント検証が表示されるようになりました。
12.4(2)T	このコマンドが変更されました。コマンド出力が拡張され、State Signaling Events (SSE) および Simple Packet Relay Transport (SPRT) の各種設定パラメータが表示されるようになりました。
12.4(11)T	このコマンドが変更されました。 show mgcp コマンド出力が拡張され、Comedia 関連の設定が表示されるようになりました。
15.1(4)M	このコマンドが Cisco IOS 15.1(4)M に統合されました。コマンド出力が拡張され、MGCP がサポートされているパッケージの tone-package keyword 設定が表示されるようになりました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、ルータの各種 MGCP パラメータに設定された値に関する概要レベルの管理情報を表示できます。より詳細な情報を表示するには、任意のキーワードのいずれかを使用してください。

show mgcp コマンドを使用すると、IPセキュア電話装置 (STE) と STE 間のモデムリレーを有効化するために構成されている SSE パラメータおよび SPRT パラメータを表示できます。当該パラメータは、**mgcp package-capability mdste-package** コマンドでモデムリレー STE (mdste) パッケージが有効化されている場合にのみ表示されます。

show mgcp endpoint コマンドを使用すると、Cisco CallManager 機能を使用した Media Gateway Control Protocol 基本速度インターフェイス (BRI) のバックホールシグナリングの設定時に、MGCP エンドポイントの応答を一覧表示できます。

BRI エンドポイントは、アナログ (一般電話サービス) エンドポイントと同様の形式で表示されます。アナログエンドポイントで使用されている既存の関数が呼び出されます。この表示はプラットフォームに依存しないため、変更は共通コードでのみ行う必要があります。

このコマンドは、割り当てられたすべての「htsp_info_t」構造をチェックします。この構造には、すべてのエンドポイントに対応する情報が保存されています。この構造は、システム起動時のみ割り当てられます。この構造は存在するインターフェイスすべてに割り当てられますが、「vtsp_sdb_t」構造は BRI ポートの最初のチャンネルにのみ割り当てられます。

Media Gateway Control Protocol Application (MGCPAPP) をアプリケーション層として使用するエンドポイントは必須で表示されるため、使用しているアプリケーションが MGCPAPP のみであるエンドポイントも表示されます。MGCPAPP は両方の BRI チャネルで共有され、かつポート固有であるため、両方のポートが表示されます。

例

次に、mdste モデムリレーパッケージが有効になっている状態で **show mgcp** コマンドを実行した場合の出力例の一部を示します。

```
Router# show mgcp
```

```

MGCP Admin State ACTIVE, Oper State ACTIVE - Cause Code NONE
MGCP call-agent: 10.7.0.200 3460 Initial protocol service is MGCP 0.1
MGCP validate call-agent source-ipaddr DISABLED
MGCP block-newcalls DISABLED
MGCP send SGCP RSIP: forced/restart/graceful/disconnected DISABLED
MGCP quarantine mode discard/step
MGCP quarantine of persistent events is ENABLED
MGCP dtmf-relay for VoIP disabled for all codec types
MGCP dtmf-relay for VoAAL2 disabled for all codec types
MGCP voip modem passthrough mode: NSE, codec: g711ulaw, redundancy: DISABLED,
MGCP voaal2 modem passthrough disabled
MGCP voip nse modem relay: Disabled
MGCP voip mdste modem relay: Enabled
    SPRT rx v14 hold time: 50 (ms), SPRT tx v14 hold count: 16,
    SPRT tx v14 hold time: 20 (ms), SPRT Retries: 12
    SSE redundancy interval: 20 (ms), SSE redundancy packet: 3,
    SSE t1 timer: 1000 (ms), SSE retries: 3
MGCP TSE payload: 100
MGCP T.38 Named Signalling Event (NSE) response timer: 200
MGCP Network (IP/AAL2) Continuity Test timer: 200
MGCP 'RTP stream loss' timer: 5
MGCP request timeout 500
MGCP maximum exponential request timeout 4000
MGCP gateway port: 2427, MGCP maximum waiting delay 20000
MGCP restart delay 0, MGCP vad DISABLED
MGCP rtrcac DISABLED
MGCP system resource check DISABLED
MGCP xpc-codec: DISABLED, MGCP persistent hookflash: DISABLED
MGCP persistent offhook: ENABLED, MGCP persistent onhook: DISABLED
MGCP piggyback msg ENABLED, MGCP endpoint offset DISABLED
MGCP simple-sdp ENABLED
MGCP undotted-notation DISABLED
MGCP codec type g711ulaw, MGCP packetization period 20
MGCP JB threshold lwm 30, MGCP JB threshold hwm 150
MGCP LAT threshold lwm 150, MGCP LAT threshold hwm 300
MGCP PL threshold lwm 1000, MGCP PL threshold hwm 10000
MGCP CL threshold lwm 1000, MGCP CL threshold hwm 10000
MGCP playout mode is adaptive 60, 4, 200 in msec
MGCP Fax Playout Buffer is 300 in msec
MGCP media (RTP) dscp: ef, MGCP signaling dscp: af31
MGCP default package: line-package
MGCP supported packages: gm-package dtmf-package mf-package trunk-package
                        line-package hs-package rtp-package script-package ms-package
                        dt-package mo-package mt-package sst-package mdr-package
                        fxr-package pre-package mdste-package srtp-package tone-package
MGCP Digit Map matching order: shortest match
SGCP Digit Map matching order: always left-to-right
MGCP VoAAL2 ignore-lco-codec DISABLED
MGCP T.38 Max Fax Rate is DEFAULT
MGCP T.38 Fax is ENABLED
MGCP T.38 Fax ECM is ENABLED
MGCP T.38 Fax NSF Override is DISABLED
MGCP T.38 Fax Low Speed Redundancy: 0
MGCP T.38 Fax High Speed Redundancy: 0
MGCP control bind :DISABLED
MGCP media bind :DISABLED
MGCP Upspeed payload type for G711ulaw: 0, G711alaw: 8
MGCP Dynamic payload type for G.726-16K codec
MGCP Dynamic payload type for G.726-24K codec
MGCP Dynamic payload type for G.Clear codec

```

次の出力例は、メディアソースチェックのステータスおよびゲートウェイ権限を示しています。

```

Router# show mgcp
MGCP Admin State ACTIVE, Oper State ACTIVE - Cause Code NONE
MGCP call-agent: 10.7.0.201 2497 Initial protocol service is MGCP 1.0
.
.
.
MGCP Dynamic payload type for NTE is 99
MGCP rsip-range is enabled for TGCP only.
MGCP Comedia role is PASSIVE
MGCP Comedia check media source is ENABLED
MGCP Comedia sdp force is DISABLED
MGCP Guaranteed scheduler time is DISABLED
MGCP DNS stale threshold is 30 seconds
.
.
.

```

次に、mdste パッケージが無効になっている状態で **show mgcp** コマンドを実行した場合の出力例の一部を示します。

```

Router(config)# no mgcp package-capability mdste-package
Router(config)# exit
Router# show mgcp
MGCP voip mdste modem relay: Disabled

```

次の表で、この出力で表示される重要なフィールドについて説明します。

表 19: show mgcp のフィールドの説明

フィールド	説明
MGCP Admin State...Oper State	MGCP デーモンの管理状態と動作状態。管理状態は、 mgcp コマンドおよび mgcp block-newcalls コマンドでアプリケーションの開始と停止を制御します。動作状態は、通常の MGCP 動作を制御します。
MGCP call-agent	mgcp call-agent コマンドまたは call-agent コマンドで指定されたコールエージェントのアドレス、およびこのセッションに対して開始されたプロトコル。
MGCP block-newcalls	mgcp block-newcalls コマンドの状態。
MGCP send SGCP RSIP, disconnected	mgcp sgcp restart notify コマンドおよび mgcp sgcp disconnected notify コマンドの設定（有効または無効）。
MGCP quarantine mode	検疫バッファによる Simple Gateway Control Protocol (SGCP) イベントの処理方法。
MGCP quarantine of persistent events is	SGCP 永続イベントを検疫バッファによって処理するかどうかを指定します。
MGCP dtmf-relay	mgcp dtmf-relay コマンドの設定。

フィールド	説明
MGCP voip modem passthrough	mgcp modem passthrough mode コマンド、 mgcp modem passthrough codec コマンド、および mgcp modem passthrough voip redundancy コマンドによる、モード、コーデックおよび冗長性の設定。
MGCP voip mdste modem relay	mgcp modem relay voip sprt v14 receive playback コマンド、 mgcp modem relay voip sprt v14 transmit maximum hold-count コマンド、 mgcp modem relay voip sprt v14 transmit hold-time コマンド、 mgcp modem relay voip sprt retries コマンド、 mgcp modem relay voip sse redundancy コマンド、および mgcp modem relay voip sse t1 コマンドの設定。
SPRT rx v14 hold time	mgcp modem relay voip sprt v14 receive playback hold-time time コマンドの設定。
SPRT tx v14 hold count	mgcp modem relay voip sprt v14 transmit maximum hold-count characters コマンドの設定。
SPRT rx v14 hold time	mgcp modem relay voip sprt v14 transmit hold-time time コマンドの設定。
SPRT Retries	mgcp modem relay voip sprt retries コマンドの設定。
SSE redundancy interval	mgcp modem relay voip mode sse redundancy interval time コマンドの設定。
SSE redundancy packet	mgcp modem relay voip mode sse redundancy packet コマンドの設定。
SSE t1 timer	mgcp modem relay voip mode sse redundancy t1 コマンドの設定。
SSE retries	mgcp modem relay voip mode sse redundancy retries コマンドの設定。
MGCP Comedia role	ゲートウェイの場所が次のいずれかで表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ACTIVE -- NAT の内部 • PASSIVE -- NAT の外部
MGCP Comedia check media source	グローバルメディア IP およびポートアドレスの検出ステータス (ENABLED (有効) または DISABLED (無効))。
MGCP Comedia sdp force	SDP への方向属性強制挿入の設定状態 (ENABLED (有効) または DISABLED (無効))
MGCP TSE payload	mgcp tse payload コマンドの設定。

フィールド	説明
MGCP Network (IP/AAL2) Continuity Test timer	mgcp timer コマンドの net-cont-test キーワードの設定。
MGCP 'RTP stream loss' timer	mgcp timer コマンドの receive-rtcp キーワードの設定。
MGCP request timeout	mgcp request timeout コマンドの設定。
MGCP maximum exponential request timeout	mgcp request timeout max コマンドの設定。
MGCP gateway port	ゲートウェイの UDP ポート指定。
MGCP maximum waiting delay	mgcp max-waiting-delay コマンドの設定。
MGCP restart delay	mgcp restart-delay コマンドの設定。
MGCP vad	mgcp vad コマンドの設定。
MGCP rtrcac	mgcp rtrcac コマンドで MGCP SA エージェント CAC が有効になっているかどうかを表示します。
MGCP system resource check	mgcp src-cac コマンドで MGCP SRC CAC が有効になっているかどうかを表示します。
MGCP xpc-codec	mgcp sdp xpc-codec コマンドの設定で、Network-Based Call Signaling (NCS) および Trunking Gateway Control Protocol (TGCP) で Session Description Protocol (SDP) コーデックネゴシエーション用の X-pc コーデックフィールドを生成するよう設定済みかどうかを表示します。
MGCP persistent hookflash	mgcp persistent hookflash コマンドの設定で、永続的なフックフラッシュイベントをコールエージェントに送信するよう設定済みかどうかを表示します。
MGCP persistent offhook	mgcp persistent offhook コマンドの設定で、永続的なオフフックイベントをコールエージェントに送信するよう設定済みかどうかを表示します。
MGCP persistent onhook	mgcp persistent onhook コマンドの設定で、永続的なオンフックイベントをコールエージェントに送信するよう設定済みかどうかを表示します。
MGCP piggyback msg	mgcp piggyback message コマンドの設定で、ピギーバックメッセージングが有効化されているかどうかを表示します。

フィールド	説明
MGCP endpoint offset	mgcp endpoint offset コマンドの設定で、NCSのエンドポイント名ローカル部分の増分が有効化されているかどうかを表示します。ローカル部分には、アナログまたはデジタルの音声ポート識別子が含まれます。
MGCP simple-sdp	mgcp sdp simple コマンドの設定で、シンプルモードのSDP操作が有効化されているかどうかを表示します。
MGCP undotted-notation	mgcp sdp notation undotted コマンドの設定で、コーデック文字列のドットなしSDP表記が有効化されているかどうかを表示します。
MGCP codec type	mgcp codec コマンドの設定。
MGCP packetization period	mgcp codec コマンドの packetization period パラメータの設定。
MGCP JB threshold lwm	mgcp quality-threshold コマンドで設定されたジッターバッファ最小しきい値のパラメータ。
MGCP JB threshold hwm	mgcp quality-threshold コマンドで設定されたジッターバッファ最大しきい値のパラメータ。
MGCP LAT threshold lwm	mgcp quality-threshold コマンドで設定された遅延最小しきい値のパラメータ。
MGCP LAT threshold hwm	mgcp quality-threshold コマンドで設定された遅延最大しきい値のパラメータ。
MGCP CL threshold lwm	mgcp quality-threshold コマンドで設定されたパケット損失の最小しきい値のパラメータ。
MGCP PL threshold hwm	mgcp quality-threshold コマンドで設定されたパケット損失の最大しきい値のパラメータ。
MGCP CL threshold lwm	mgcp quality-threshold コマンドで設定されたセル損失の最小しきい値のパラメータ。
MGCP CL threshold hwm	mgcp quality-threshold コマンドで設定されたセル損失の最大しきい値のパラメータ。
MGCP playout mode is	ジッターバッファパケットのタイプおよびサイズ。
MGCP default package	mgcp default-package コマンドでデフォルトパッケージとして設定済みのパッケージ。

フィールド	説明
MGCP supported packages	mgcp package-capability コマンドで、当該セッションの当該ゲートウェイでサポート対象として設定されたパッケージ。Cisco IOS リリース 12.3(8)T では、新たに Line Control Signaling Package (lcs-package) が表示されるようになりました。
MGCP voaal2 modem passthrough	mgcp modem passthrough mode コマンドおよび mgcp modem passthrough codec コマンドによる、モード、コーデックおよび冗長性の設定。
MGCP T.38 Fax	<p>mgcp fax t.38 コマンドの設定。次の値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MGCP T.38 fax : ENABLED (有効) または DISABLED (無効)。 • Error correction mode (ECM; エラー訂正モード) : ENABLED (有効) または DISABLED (無効)。 • Nonstandard facilities (NSF) のオーバーライド : ENABLED (有効) または DISABLED (無効)。有効の場合、オーバーライドコードが表示されます。 • MGCP T.38 fax low-speed redundancy (MGCP T.38 ファクス低速冗長性) : 当該ゲートウェイに設定されている冗長性ファクタ。 • MGCP T.38 fax low-speed redundancy (MGCP T.38 ファクス高速冗長性) : 当該ゲートウェイに設定されている冗長性ファクタ。

関連コマンド

コマンド	説明
ccm-manager config	XML 構成ファイルをダウンロードし、構成のダウンロードを有効にする TFTP サーバーの IP アドレスまたは論理名をローカルの MGCP 音声ゲートウェイに提供します。
debug ccm-manager	Cisco CallManager に関するデバッグ情報を表示します。
debug mgcp	MGCP エラー、イベント、メディア、パケットおよびパーサーに対するデバッグトレースを有効化します。
isdn bind-l3 (interface BRI)	BRI による、MGCP のサポートおよび ISDN レイヤ 3 の Cisco CallManager バックホールへのバインドを設定します。
mgcp	MGCP のリソースを割り当て、デーモンを起動します。

コマンド	説明
mgcp behavior comedia-check-media-src	MGCP ゲートウェイ全体で受信した最初の RTP パケットから、IP アドレスおよびポートの検出を有効化します。
mgcp behavior comedia-role	MGCP ゲートウェイの場所を示します。
mgcp behavior comedia-sdp-force	コマンドを参照として使用し、強制的に SDP が方向属性を SDP に設定するようにします。
mgcp package-capability mdste-package	メディアゲートウェイに割り当てる MGCP パッケージの機能タイプを指定します。
security password-group	ゲートキーパーゾーンで使用されるパスワードを定義し、そのパスワードをゲートキーパー間の認証用 ID に関連付けます。
show ccm-manager	Cisco CallManager サーバーの一覧、および各サーバーの現在のステータスと可用性を表示します。
show ccm-manager fallback-mgcp	MGCP ゲートウェイのフォールバック機能のステータスを表示します。
show mgcp connection	アクティブな MGCP 制御接続の情報を表示します。
show mgcp endpoint	MGCP 制御エンドポイントの情報を表示します。
show mgcp nas	データポートの MGCP NAS 情報を表示します。
show mgcp profile	MGCP プロファイル関連パラメータの値を表示します。
show mgcp statistics	送受信したネットワークメッセージに関する MGCP 統計情報を表示します。

show mgcp connection

Media Gateway Control Protocol (MGCP) によって制御されているアクティブな接続の情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show mgcp connection** コマンドを使用します。

show mgcp connection

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(1)T	show mgcp コマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(3)T	show mgcp コマンド出力が更新され、ゲートウェイおよびプラットフォームの追加情報が表示されるようになりました。
12.1(5)XM	show mgcp コマンド出力が更新され、ゲートウェイおよびプラットフォームの追加情報が表示されるようになりました。
12.2(2)T	show mgcp コマンドが Cisco 7200 シリーズに導入され、Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XA	profile キーワードが追加されました。
12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB	<p>show mgcp コマンドの出力が拡張され、MGCP のシステムリソースチェック (SRC) コールアドミッション制御 (CAC)、およびサービス保証エージェント (SA エージェント) CAC の各ステータスが表示されるようになりました。(Cisco IOS リリース 12.2(2) XB のオンラインドキュメント『MGCP VoIP コールアドミッションコントロール』を参照してください。)</p> <p>nas dump slot port channel および nas info の各キーワードおよび引数が追加されました。キーワードの数が増えたため、show mgcp コマンドのコマンドページは次の各コマンドページに分割されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • show mgcp • show mgcp connection • show mgcp endpoint • show mgcp nas • show mgcp profile • show mgcp statistics

リリース	変更内容
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。このリリースでは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていません。
12.2(11)T	Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800 および Cisco AS5850 に対するサポートが追加されました。
12.3(11)T	コマンド出力が拡張され、Secure Real-Time Transport Protocol (SRTP) 接続で使用される暗号化スイートが表示されるようになりました。
12.4(2)T	コマンド出力が拡張され、現在のメディア状態が表示されるようになりました。
12.4(11)T	コマンド出力が拡張され、検出された NAT アドレスおよびポートが表示されるようになりました。

例

次に、**show mgcp connection** コマンドで、メディア状態がモデムリレーモードのセキュアコールを表示した場合の出力例を示します。

```
Router# show mgcp connection
Endpoint Call_ID(C) Conn_ID(I) (P)ort (M)ode (S)tate (CO)dec (E)vent[SIFL] (R)esult[EA]
(ME)dia
1. S2/DS1-2/1 C=A0000000010000100000000F5,4,3 I=0x2 P=17098,2662 M=3 S=4,4 CO=1
E=3,0,0,3 R=0,0 ME=2
```

次にこのコマンドを使って、検出された NAT アドレスおよびポートを表示した出力例を示します。(P)ort 出力には、検出前のローカルポートおよびアダプタイズされたポートが表示されています。(COM)Addr/Port 出力には、検出されたメディアアドレスとポート (10.7.1.21:1500) が表示されています。

```
Router# show mgcp connection
Endpoint Call_ID(C) Conn_ID (I) (P)ort (M)ode(S)tate(CO)dec (E)vent[SIFL] (R)esult[EA]
(COM)Addr/Port
S7/DS1-4/1 C=201597,768784,768785 I=0x5DD85 P=18258,19062 M=3 S=4,4 CO=2 E=2,0,0,2
R=0,0,0,2 COM=10.7.1.21:15000
```

次の出力例は、このコマンドで暗号化された接続を表示したものです。

```
Router# show mgcp connection
Endpoint Call_ID(C) Conn_ID(I) (P)ort (M)ode (S)tate (CO)dec (E)vent[SIFL]
(R)esult[EA] Encryption(K)
1. S1/DS1-0/1 C=2,1,2 I=0x2 P=18204,0 M=2 S=4,4 CO=1 E=0,0,0,0 R=0,0 K=1
```

次に、このコマンドを使って VoIP 接続を表示した出力例を示します。

```
Router# show mgcp connection
Endpoint Call_ID(C) Conn_ID(I) (P)ort (M)ode (S)tate (C)odec (E)vent[SIFL] (R)esult[EA]
1. S0/DS1-0/1 C=103,23,24 I=0x8 P=16586,16634 M=3 S=4,4 C=5 E=2,0,0,2 R=0,0
2. S0/DS1-0/2 C=103,25,26 I=0x9 P=16634,16586 M=3 S=4,4 C=5 E=0,0,0,0 R=0,0
3. S0/DS1-0/3 C=101,15,16 I=0x4 P=16506,16544 M=3 S=4,4 C=5 E=2,0,0,2 R=0,0
4. S0/DS1-0/4 C=101,17,18 I=0x5 P=16544,16506 M=3 S=4,4 C=5 E=0,0,0,0 R=0,0
5. S0/DS1-0/5 C=102,19,20 I=0,6 P=16572,16600 M=3 S=4,4 C=5 E=2,0,0,2 R=0,0
```

```
6. S0/DS1-0/6 C=102,21,22 I=0x7 P=16600,16572 M=3 S=4,4 C=5 E=0,0,0,0 R=0,0
Total number of active calls 6
```

次に、このコマンドを使って Voice over ATM Adaptation Layer 2 (VoAAL2) 接続を表示した出力例を示します。

```
Router# show mgcp connection
Endpoint Call_ID(C) Conn_ID(I) (V)cci/cid (M)ode (S)tate (C)odec (E)vent[SIFL] (R)esult[EA]
1.aaln/S1/1 C=1,11,12 I=0x2 V=2/10 M=3 S=4,4 C=1 E=3,0,0,3 R=0,0
Total number of active calls 1
```

次の表で、この出力で表示される重要なフィールドについて説明します。

表 20 : show mgcpconnection のフィールドの説明

フィールド	説明
Endpoint	デジタルエンドポイント命名規則「スロット番号 (S0) およびデジタル回線 (DS1-0) 番号 (1)」に則って表示される、各コールのエンドポイント。
Call_ID(C)	コールエージェントから送信された MGCP コール ID、当該エンドポイントの内部呼制御アプリケーションプログラミングインターフェイス (CCAPI) コール ID、およびピアコールレッグの CCAPI コール ID。 (CCAPI は、アプリケーションに呼制御ファシリティを提供する API です。)
(COM)Addr/Port	検出されたメディアアドレスとポート。
Conn_ID(I)	ゲートウェイで生成され ACK メッセージで送信された接続 ID。
(P)ort	この接続に使用されるポート。1 番目のポートは、ローカルの User Datagram Protocol (UDP) ポートです。2 番目のポートはリモートの UDP ポートです。
(V)cci/cid	VoAAL2 コールに使用される仮想チャネル接続識別子 (VCCI) およびチャネル識別子 (CID)。
(Me)dia	次のいずれかのメディア状態。 <ul style="list-style-type: none"> • 0-- 音声 • 1-- モデムパススルー • 2-- モデムリレー

フィールド	説明
(M)ode	次のいずれかのコールモード。 <ul style="list-style-type: none"> • 0-- 無効なモード値。 • 1-- ゲートウェイはパケットの送信のみ行う。 • 2-- ゲートウェイはパケットの受信のみ行う。 • 3-- ゲートウェイはパケットの送受信を行う。 • 4-- ゲートウェイはパケットの送受信を行わない。 • 5-- ゲートウェイは回線をループバックモードにする。 • 6-- ゲートウェイは回線をテストモードにする。 • 7-- ゲートウェイはデータのネットワークアクセスに回線を使用する。 • 8-- ゲートウェイは接続をネットワーク ループバック モードにする。 • 9-- ゲートウェイは接続をネットワーク連続性テストモードにする。 • 10-- ゲートウェイは接続を会議モードにする。 <p>その他の値はすべて、内部デバッグ用途に使用されます。</p>
(S)tate	コール状態。この値は、内部デバッグ用途に使用されます。
(Co)dec	コーデック識別子。この値は、内部デバッグ用途に使用されます。
(E)vent [SIFL]	内部デバッグ用途に使用されます。
(R)esult [EA]	内部デバッグ用途に使用されます。
Encryption(K)	次のいずれかの暗号化スイート。 <ul style="list-style-type: none"> • 0-- なし • 1-- AES_CM_128_HMAC_SHA1_32

関連コマンド

コマンド	説明
debug mgcp	MGCP エラー、イベント、メディア、パケットおよびパーサーに対するデバッグトレースを有効化します。
mgcp	MGCP のリソースを割り当て、デーモンを起動します。
mgcp behavior comedia-check-media-src	MGCP ゲートウェイ全体で受信した最初の rtp パケットから、IP アドレスおよびポートの検出を有効化します。
mgcp behavior comedia-role	MGCP ゲートウェイの場所を示します。

コマンド	説明
mgcp behavior comedia-sdp-force	コマンドを参照として使用し、強制的に SDP が方向属性を SDP に設定するようにします。
security password-group	ゲートキーパーゾーンで使用されるパスワードを定義し、そのパスワードをゲートキーパー間の認証用 ID に関連付けます。
show mgcp	MGCP パラメータの値を表示します。
show mgcp endpoints	MGCP 制御エンドポイントの情報を表示します。
show mgcp nas	データポートの MGCP NAS 情報を表示します。
show mgcp profile	MGCP プロファイル関連パラメータの値を表示します。
show mgcp statistics	送受信したネットワークメッセージに関する MGCP 統計情報を表示します。

show mgcp endpoint

Media Gateway Control Protocol (MGCP) によって制御されているエンドポイントの情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show mgcp endpoint** コマンドを使用します。

show mgcp endpoint

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(1)T	show mgcp コマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(3)T	show mgcp コマンド出力が更新され、追加のゲートウェイ情報およびプラットフォーム情報が表示されるようになりました。
12.1(5)XM	show mgcp コマンド出力が更新され、追加のゲートウェイおよびプラットフォーム情報が表示されるようになりました。
12.2(2)T	show mgcp コマンドが Cisco 7200 シリーズに導入され、このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XA	profile キーワードが show mgcp コマンドに追加されました。
12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB	<p>show mgcp コマンドの出力が拡張され、MGCP のシステムリソースチェック (SRC) コールアドミッション制御 (CAC)、およびサービス保証エージェント (SA エージェント) CAC の各ステータスが表示されるようになりました。(Cisco IOS リリース 12.2(2) XB のオンラインドキュメント『MGCP VoIP コールアドミッションコントロール』を参照してください。)</p> <p>さらに、show mgcp コマンドにキーワードと引数 nas dump slot port channel および nas info が追加されました。キーワードの数が増えたため、show mgcp コマンドのコマンドリファレンスページは次の各コマンドリファレンスページに分割されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • show mgcp • show mgcp connection • show mgcp endpoint • show mgcp nas • show mgcp profile • show mgcp statistics

リリース	変更内容
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。このリリースでは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていません。
12.2(11)T	このリリースのコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。

例

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router#
show mgcp endpoint
  ENDPOINT-NAME      V-PORT  SIG-TYPE  ADMIN
ds1-0/1@nytnk116    0:1     fxs-gs    up
ds1-0/2@nytnk116    0:1     fxs-gs    up
ds1-0/3@nytnk116    0:1     fxs-gs    up
ds1-0/4@nytnk116    0:1     fxs-gs    up
ds1-0/5@nytnk116    0:1     fxs-gs    up
ds1-0/6@nytnk116    0:1     fxs-gs    up
ds1-0/7@nytnk116    0:1     fxs-gs    up
ds1-0/8@nytnk116    0:1     fxs-gs    up
ds1-0/9@nytnk116    0:1     fxs-gs    up
ds1-0/10@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/11@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/12@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/13@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/14@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/15@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/16@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/17@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/18@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/19@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/20@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/21@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/22@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/23@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
ds1-0/24@nytnk116   0:1     fxs-gs    up
Interface T1 1
  ENDPOINT-NAME      V-PORT  SIG-TYPE  ADMIN
ds1-1/1@nytnk116    1:1     e&m-imd   up
ds1-1/2@nytnk116    1:1     e&m-imd   up
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 21 : show mgcp endpoint のフィールドの説明

フィールド	説明
ENDPOINT-NAME	コールエージェントが、特定のゲートウェイ上にある特定の mgcp エンドポイントを識別するために使用する名前。
V-PORT	音声ポート

フィールド	説明
SIG-TYPE	特定エンドポイントのシグナリングタイプ（たとえば、SS7 ISDN ユーザーパート（ISUP）の場合は NONE、Foreign Exchange Station（FXS）グラウンドスタートの場合は FXS-GS）。
ADMIN	管理ステータス -- Up または Down。（このフィールドは、レジデンシャルゲートウェイ（RGW）プラットフォームでのみ表示されます。）

関連コマンド

コマンド	説明
debug mgcp	MGCP エラー、イベント、メディア、パケットおよびパーサーに対するデバッグトレースを有効化します。
mgcp	MGCP のリソースを割り当て、デーモンを起動します。
security password-group	ゲートキーパーゾーンで使用されるパスワードを定義し、そのパスワードをゲートキーパー間の認証用 ID に関連付けます。
show mgcp	MGCP パラメータ情報を表示します。
show mgcp connection	アクティブな MGCP 制御接続の情報を表示します。
show mgcp nas	データポートの MGCP NAS 情報を表示します。
show mgcp profile	MGCP プロファイル関連パラメータの値を表示します。
show mgcp statistics	送受信したネットワークメッセージに関する MGCP 統計情報を表示します。

show mgcp nas

データポートの Media Gateway Control Protocol (MGCP) ネットワーク アクセス サーバー (NAS) 情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show mgcp nas** コマンドを使用します。

show mgcp nas {**dump** *slot port channel* | **info**}

構文の説明

dump <i>slot port channel</i>	<p>指定したポートおよびチャンネルのNAS情報を表示します。引数は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>slot</i>-- インターフェイスカードのシャーシスロット。表示される値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AS5350 : 0 ~ 3。 • Cisco AS5400 : 0 ~ 7。 • Cisco AS5850 : 0 ~ 5 および 8 ~ 13。スロット 6 およびスロット 7 は、ルートスイッチコントローラ (RSC) 専用です。 • <i>port</i>-- モデム インターフェイス ポート。表示される値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AS5350 : T1/E1 の場合は 0 ~ 7。T3 の場合は 1 ~ 28。 • Cisco AS5400 : T1/E1 の場合は 0 ~ 7。T3 の場合は 1 ~ 28。 • Cisco AS5850 : T1/E1 の場合は 0 ~ 23。T3 の場合は 1 ~ 28。 • <i>channel</i>-- T1 または E1 チャンネル。T1 の値は 1 ~ 24 です。E1 の値は、1 ~ 31 です。
info	NAS チャンネルのステータスを表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(1)T	show mgcp コマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(3)T	show mgcp コマンド出力が更新され、追加のゲートウェイおよびプラットフォーム情報が表示されるようになりました。
12.1(5)XM	show mgcp コマンド出力が更新され、追加のゲートウェイおよびプラットフォーム情報が表示されるようになりました。
12.2(2)T	show mgcp コマンドが Cisco 7200 シリーズに導入され、このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XA	profile キーワードが show mgcp コマンドに追加されました。

リリース	変更内容
12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB	<p>show mgcp コマンドの出力が拡張され、MGCP のシステムリソースチェック (SRC) コールアドミッション制御 (CAC) 、およびサービス保証エージェント (SA エージェント) CAC の各ステータスが表示されるようになりました。(Cisco IOS リリース 12.2(2)XB のオンラインドキュメント『MGCP VoIP コールアドミッション コントロール』を参照してください。)</p> <p>さらに、show mgcp コマンドにキーワードと引数 nas dump slot port channel および nas info が追加されました。キーワードの数が増えたため、show mgcp コマンドのコマンドリファレンスページは次の各コマンドリファレンスページに分割されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • show mgcp • show mgcp connection • show mgcp endpoint • show mgcp nas • show mgcp profile • show mgcp statistics
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。このリリースでは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていません。
12.2(11)T	このリリースのコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。
12.3(7)YB	show mgcp nas dump コマンド出力の bearer cap フィールドの有効値が、LAPB、V.120 および同期データを含めるよう変更されました。 show mgcp nas dump コマンド出力に Signaling フィールドが追加されました。次の表を参照してください。
12.4(6)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.4(6)T に統合されました。

例

次の例は、自動検出された V.120 コールに関するこのコマンドの出力例を示したものです。

```
Router# show mgcp nas dump 1 7 24
Slot 1 state=Up
Port 7 state=Up
State In Use PortCb=0x6577949C ss_id=0x0 handle=0x65C88228
Bearer Cap=V.120 call_id=1 conn_id=6577B8EC
Sig Type=Autodetect
Events req- nas/crq- req id=7 :nas/of- req id=7 :
Endpt name=S1/DS1-7/24
```

```
call_id = 1, conn_id=0x6577B8EC cgn=1000 cdn=5555
Rx packets=610 Rx bytes=73242 Tx packets 716 Tx bytes 72987
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 22: show mgcp nas dump のフィールドの説明

フィールド	説明
Slot state	指定したスロットのステータス。
ポートのステート	指定したポートのステータス。
状態	指定したチャンネルのコールステータス。
bearer cap	<p>ベアラ機能。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Modem • LAPB • V.110 • V.120 • Digital 64 • Digital 56 <p>V.110、V.120、モデムまたは各デジタル値は、自動検出が有効化されておらず、シグナリングタイプが「External (外部)」に設定されている場合にのみ表示されます。自動検出が有効化されていて、シグナリングタイプが「Autodetect (自動検出)」に設定されている場合には、LAPB、V.120 および各デジタル値が表示されます。</p>
call_id	現在アクティブなコールがある場合、そのコール ID。
conn_id	現在アクティブなコールがある場合、そのコールの接続 ID。
Signaling	<p>コールタイプのシグナリング。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • External -- コールタイプは、コールエージェントからシグナリングされます。 • Autodetect -- コールタイプは、ゲートウェイで自動検出されます。
Events req	(ある場合は) 要求された NAS イベントの一覧と、各イベントの要求 ID。要求 ID は、イベントを要求したコールエージェントから送信された MGCP メッセージを識別します。
Endpt name	MGCP エンドポイント名。

次に示すこのコマンドの出力例では、各チャンネルの状態が Idle (アイドル) または In Use (使用中) のいずれかで表示されています。

```

Router# show mgcp nas info
Number of ports configured=1
Slot 1 configured slot state=Up Port 7 state=Up
=====Port 7 Channel States=====
 0 Idle
 1 Idle
 2 Idle
 3 Idle
 4 Idle
 5 Idle
 6 Idle
 7 Idle
 8 Idle
 9 Idle
10 Idle
11 Idle
12 Idle
13 Idle
14 Idle
15 Idle
16 Idle
17 Idle
18 Idle
19 Idle
20 Idle
21 Idle
22 Idle
23 In Use
=====

```

関連コマンド

コマンド	説明
debug mgcp	MGCP エラー、イベント、メディア、パケットおよびパーサーに対するデバッグトレースを有効化します。
mgcp	MGCP のリソースを割り当て、デーモンを起動します。
security password-group	ゲートキーパーゾーンで使用されるパスワードを定義し、そのパスワードをゲートキーパー間の認証用 ID に関連付けます。
show mgcp	MGCP パラメータ情報を表示します。
show mgcp connection	アクティブな MGCP 制御接続の情報を表示します。
show mgcp endpoint	MGCP 制御エンドポイントの情報を表示します。
show mgcp profile	MGCP プロファイル関連パラメータの値を表示します。
show mgcp statistics	送受信したネットワークメッセージに関する MGCP 統計情報を表示します。

show mgcp profile

Media Gateway Control Protocol (MGCP) プロファイルの情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show mgcp profile** コマンドを使用します。

show mgcp profile [*profile-name*]

構文の説明

<i>profile -name</i>	(任意) 情報を表示したい MGCP プロファイルの名前。入力できるのは最長 32 文字です。
----------------------	---

コマンド デフォルト

任意の *profile-name* 引数を使用しなかった場合、設定済みのプロファイルすべてが表示されません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(1)T	show mgcp コマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(3)T	show mgcp コマンド出力が更新され、追加のゲートウェイおよびプラットフォーム情報が表示されるようになりました。
12.1(5)XM	show mgcp コマンド出力が更新され、追加のゲートウェイおよびプラットフォーム情報が表示されるようになりました。
12.2(2)T	show mgcp コマンドが Cisco 7200 シリーズに導入され、このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XA	profile キーワードが show mgcp コマンドに追加されました。
12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。

リリース	変更内容
12.2(2)XB	<p>show mgcp コマンドの出力が拡張され、MGCP のシステムリソースチェック (SRC) コールアドミッション制御 (CAC) 、およびサービス保証エージェント (SA エージェント) CAC の各ステータスが表示されるようになりました。(Cisco IOS リリース 12.2(2) XB のドキュメント『<i>MGCP VoIP</i> コールアドミッション制御』を参照してください。)</p> <p>さらに、show mgcp コマンドにキーワードと引数 nas dump slot port channel および nas info が追加されました。キーワードの数が増えたため、show mgcp コマンドのコマンドリファレンスページは次の各コマンドリファレンスページに分割されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • show mgcp • show mgcp connection • show mgcp endpoint • show mgcp nas • show mgcp profile • show mgcp statistics
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。このリリースでは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていません。
12.2(11)T	このリリースのコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。
12.4(4)T	出力内容が追加され、コールエージェントに対して ANI 番号および DNIS 番号が送信される順序が表示されるようになりました。

例

以下は、このコマンドでデフォルトプロファイルを指定した場合の出力例です。

```
Router# show mgcp profile default
MGCP Profile default
Description: None
Call-agent: none Initial protocol service is unknown
Tsmx timeout is 20 sec, Tdinit timeout is 15 sec
Tdmin timeout is 15 sec, Tdmax timeout is 600 sec
Tcrit timeout is 4 sec, Tpar timeout is 16 sec
Thist timeout is 30 sec, MWI timeout is 16 sec
Ringback tone timeout is 180 sec, Ringback tone on connection timeout is 180 sec
Network congestion tone timeout is 180 sec, Busy tone timeout is 30 sec
Dial tone timeout is 16 sec, Stutter dial tone timeout is 16 sec
Ringing tone timeout is 180 sec, Distinctive ringing tone timeout is 180 sec
Continuity1 tone timeout is 3 sec, Continuity2 tone timeout is 3 sec
Reorder tone timeout is 30 sec, Persistent package is ms-package
Max1 DNS lookup: ENABLED, Max1 retries is 5
Max2 DNS lookup: ENABLED, Max2 retries is 7
Source Interface: NONE
```

T3 endpoint naming convention is T1
CAS Notification Digit order is DNIS-ANI

以下は、このコマンドでプロファイル「example」を指定した場合の出力例です。

```
Router# show mgcp profile example
MGCP Profile example
Description:None
Call-agent:10.9.57.6 5003 Initial protocol service is MGCP 1.0
Tsmax timeout is 20, Tdinit timeout is 15
Tdmin timeout is 15, Tdmax timeout is 600
Tcrit timeout is 4, Tpar timeout is 16
Thist timeout is 30, MWI timeout is 16
Ringback tone timeout is 180, Ringback tone on connection timeout is 180
Network congestion tone timeout is 180, Busy tone timeout is 30
Dial tone timeout is 16, Stutter dial tone timeout is 16
Ringing tone timeout is 180, Distinctive ringing tone timeout is 180
Continuity1 tone timeout is 3, Continuity2 tone timeout is 3
Reorder tone timeout is 30, Persistent package is ms-package
Max1 DNS lookup:ENABLED, Max1 retries is 4
Max2 DNS lookup:ENABLED, Max2 retries is 6
Voice port:1
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 23: show mgcp profile のフィールドの説明

フィールド	説明
MGCP Profile	mgcp profile コマンドでこのプロファイルに設定された名前。
Description	description MGCP profile コマンドでこのプロファイルに設定された説明。
Call-agent	call-agent コマンドでこのプロファイルに設定されたコールエージェントのドメインネームサーバー (DNS) または IP アドレス。
Initial protocol service	call-agent コマンドでこのプロファイルに設定された、使用するプロトコルサービス。
Tsmax timeout	timeout tsmax コマンドでこのプロファイルに設定された、再送信キューからメッセージを削除するまでの最大タイムアウト値。
Tdinit timeout	timeout tdinit コマンドでこのプロファイルに設定された初期待機遅延。
Tdmin timeout	timeout tdmin コマンドでこのプロファイルに設定された、接続解除手順までの最小タイムアウト値。
Tdmax timeout	timeout tdmax コマンドでこのプロファイルに設定された、接続解除手順までの最大タイムアウト値。
Tcrit timeout	timeout tcrit コマンドでこのプロファイルに設定された、桁照合で使用される桁間タイマーのクリティカルタイムアウト値。

フィールド	説明
Tpar timeout	timeout tpar コマンドでこのプロファイルに設定された、桁照合で使用される桁間タイマーの部分的タイムアウト値。
Thist timeout	timeout thist コマンドでこのプロファイルに設定された、パケット保存タイムアウト値。
MWI timeout	timeout tone mwi コマンドでこのプロファイルに設定された、メッセージ待機インジケータトーンのタイムアウト値。
Ringback tone timeout	timeout tone ringback コマンドでこのプロファイルに設定された、リングバックトーンのタイムアウト値。
Ringback tone on connection timeout	timeout tone ringback connection コマンドでこのプロファイルに設定された、接続時のリングバックトーンのタイムアウト値。
Network congestion tone timeout	timeout tone network congestion コマンドでこのプロファイルに設定された、ネットワーク輻輳トーンのタイムアウト値。
Busy tone timeout	timeout tone busy コマンドでこのプロファイルに設定された、話中音のタイムアウト値。
Dial tone timeout	timeout tone dial コマンドでこのプロファイルに設定された、ダイヤルトーンのタイムアウト値。
Stutter dial tone timeout	timeout tone dial stutter コマンドでこのプロファイルに設定された、断続ダイヤルトーンのタイムアウト値。
Ringling tone timeout	timeout tone ringing コマンドでこのプロファイルに設定された、呼び出し音のタイムアウト値。
Distinctive ringing tone timeout	timeout tone ringing distinctive コマンドでこのプロファイルに設定された、特殊呼び出し音のタイムアウト値。
Continuity1 tone timeout	timeout tone cot1 コマンドでこのプロファイルに設定された、continuity1 トーンのタイムアウト値。
Continuity2 tone timeout	timeout tone cot2 コマンドでこのプロファイルに設定された、continuity2 トーンのタイムアウト値。
Reorder tone timeout	timeout tone reorder コマンドでこのプロファイルに設定された、リオーダー音のタイムアウト値。
Persistent package	package persistent コマンドでこのプロファイルに永続性パッケージとして設定されたパッケージ名。

フィールド	説明
Max1 lookup	max1 lookup コマンドでこのプロファイルに設定された、不審しきい値に到達した後のコールエージェントのドメインネームサーバー (DNS) ルックアップ。
Max1 retries	max1 retries コマンドでこのプロファイルに設定された、新しい DNS ルックアップが実行される前にコールエージェントへの到達を再試行できる回数。
Max2 lookup	max2 lookup コマンドで設定された、切断しきい値に到達した後のコールエージェントの DNS ルックアップ。
Max2 retries	max2 retries コマンドで設定された、新しい DNS ルックアップが実行される前にコールエージェントへの到達を再試行できる最大回数。
CAS Notification Digit order	notify コマンドで設定された、通知メッセージで ANI 番号および DNIS 番号が送信される順序。

関連コマンド

コマンド	説明
debug mgcp	MGCP エラー、イベント、メディア、パケットおよびパーサーに対するデバッグトレースを有効化します。
mgcp	MGCP のリソースを割り当て、デーモンを起動します。
security password-group	ゲートキーパーゾーンで使用されるパスワードを定義し、そのパスワードをゲートキーパー間の認証用 ID に関連付けます。
show mgcp	MGCP パラメータ情報を表示します。
show mgcp connection	アクティブな MGCP 制御接続の情報を表示します。
show mgcp endpoint	MGCP 制御エンドポイントの情報を表示します。
show mgcp nas	データポートの MGCP NAS 情報を表示します。
show mgcp statistics	送受信したネットワークメッセージに関する MGCP 統計情報を表示します。

show mgcp srtp

Media Gateway Control Protocol (MGCP) によって制御されているアクティブな Secure Real-Time Transport Protocol (SRTP) 接続の情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show mgcp srtp** コマンドを使用します。

show mgcp srtp {summary | detail [endpoint]}

構文の説明	summary	MGCP SRTP 接続の要約情報を表示します。
	detail endpoint	MGCP SRTP 接続の詳細情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>endpoint</i> 引数を使用すると、特定の接続に限定してエンドポイントを表示できます。<i>endpoint</i> 引数には、次のいずれかの値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • ポート番号。 • アスタリスク (*) ワイルドカード文字。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.3(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用すると、MGCPアプリケーションで作成されたセキュアコールに関する情報を表示できます。表示する接続エンドポイントを指定するには、**show mgcp srtp detail endpoint** コマンドを使用します。*endpoint* 引数に入力できる有効な値（つまりエンドポイントのポート番号）を表示するには、**show mgcp connection** コマンドを使用します。**show mgcp srtp detail** コマンドを使用すると、各接続で使用されるプライマリキーおよびソルト（暗号化メカニズム）のハッシュ化されたバージョンを表示できます。この出力によって、実際のプライマリキーとソルトを表示することなく、コールの各エンドポイントのキーおよびソルトを検証できます。

例

次の出力例は、このコマンドで暗号化された接続を表示したものです。

```
Router# show mgcp srtp summary
MGCP SRTP Connection Summary
Endpoint          Conn Id   Crypto Suite
aaln/S3/SU0/0    8        AES_CM_128_HMAC_SHA1_32
aaln/S3/SU0/1    9        AES_CM_128_HMAC_SHA1_32
S3/DS1-0/1       6        AES_CM_128_HMAC_SHA1_32
S3/DS1-0/2       7        AES_CM_128_HMAC_SHA1_32
4 SRTP connections active
```

```
Router# show mgcp srtp detail
MGCP SRTP Connection Detail for Endpoint *
```

Definitions: CS=Crypto Suite, KS=HASHED Key/Salt, SSRC=Syncronization Source, ROC=Rollover Counter, KDR=Key Derivation Rate, SEQ=Sequence Number, FEC=FEC Order, MLT=Key Lifetime, MKI=Key Index:MKI Size

```
Endpoint aaln/S0/SU2/1 Call ID 40294955 Conn ID 4
Tx:CS=AES_CM_128_HMAC_SHA1_32 KS=2FFkUcBi/+XbiwKapdySC0F4nOQ= SSRC=Random ROC=0 KDR=1
SEQ=Random FEC=FEC->SRTP MLT=0x80000000 MKI=0:0
Rx:CS=AES_CM_128_HMAC_SHA1_32 KS=XrCnoQ4ef8385GRNdTIUnFkbkN0= SSRC=Random ROC=0 KDR=1
SEQ=Random FEC=FEC->SRTP MLT=0x80000000 MKI=0:0
```

1 SRTP connections displayed

Router# **show mgcp srtp detail S3/DS1-0/**

```
*
show mgcp srtp detail aaln/S0/SU2/1
MGCP SRTP Connection Detail for Endpoint aaln/S0/SU2/1
```

Definitions: CS=Crypto Suite, KS=HASHED Key/Salt, SSRC=Syncronization Source, ROC=Rollover Counter, KDR=Key Derivation Rate, SEQ=Sequence Number, FEC=FEC Order, MLT=Key Lifetime, MKI=Key Index:MKI Size

```
Endpoint aaln/S0/SU2/1 Call ID 40294955 Conn ID 4
Tx:CS=AES_CM_128_HMAC_SHA1_32 KS=2FFkUcBi/+XbiwKapdySC0F4nOQ= SSRC=Random ROC=0 KDR=1
SEQ=Random FEC=FEC->SRTP MLT=0x80000000 MKI=0:0
Rx:CS=AES_CM_128_HMAC_SHA1_32 KS=ayYP5V9d+z2L4fUNYk8E7VwOGs8= SSRC=Random ROC=0 KDR=1
SEQ=Random FEC=FEC->SRTP MLT=0x80000000 MKI=0:0
```

1 SRTP connections displayed

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 24: *show mgcpsrtp* のフィールドの説明

フィールド	説明
Endpoint	デジタルエンドポイント命名規則「スロット番号 (S0) およびデジタル回線 (DS1-0) 番号 (1)」に則って表示される、各コールのエンドポイント。
Call ID	コールエージェントから送信された MGCP コール ID。
Conn ID	ゲートウェイで生成され ACK メッセージで送信された接続 ID。
Crypto Suite	当該接続で使用される暗号スイートを識別します。

関連コマンド

コマンド	説明
debug mgcp	MGCP エラー、イベント、メディア、パケットおよびパーサーに対するデバッグトレースを有効化します。
mgcp	MGCP のリソースを割り当て、デーモンを起動します。
security password-group	ゲートキーパーゾーンで使用されるパスワードを定義し、そのパスワードをゲートキーパー間の認証用 ID に関連付けます。
show mgcp	MGCP パラメータの値を表示します。

コマンド	説明
show mgcp connection	アクティブな MGCP 制御接続の情報を表示します。
show mgcp endpoint	MGCP 制御エンドポイントの情報を表示します。
show mgcp nas	データポートの MGCP NAS 情報を表示します。
show mgcp profile	MGCP プロファイル関連パラメータの値を表示します。

show mgcp statistics

送受信されたネットワークメッセージに関する Media Gateway Control Protocol (MGCP) の統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show mgcp statistics** コマンドを使用します。

show mgcp statistics

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
12.1(1)T	show mgcp コマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(3)T	show mgcp コマンド出力が更新され、追加でゲートウェイおよびプラットフォームの追加情報が表示されるようになりました。
12.1(5)XM	show mgcp コマンド出力が更新され、追加でゲートウェイおよびプラットフォームの追加情報が表示されるようになりました。
12.2(2)T	show mgcp コマンドが Cisco 7200 シリーズに導入され、このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(2)T に統合されました。
12.2(2)XA	show mgcp コマンドに profile キーワードが追加されました。
12.2(4)T	このコマンドが、Cisco IOS リリース 12.2(4)T に統合されました。
12.2(2)XB	<p>show mgcp コマンドの出力が拡張され、MGCP のシステムリソースチェック (SRC) コールアドミッション制御 (CAC)、およびサービス保証エージェント (SA エージェント) CAC の各ステータスが表示されるようになりました。(Cisco IOS リリース 12.2(2)XB のオンラインドキュメント『MGCP VoIP コールアドミッションコントロール』を参照してください。)</p> <p>さらに、show mgcp コマンドに nas dump slot port channel と nas info のキーワードと引数が追加されました。コマンドリファレンス簡素化のため、show mgcp コマンドのコマンドページが次の各コマンドページに分割されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • show mgcp • show mgcp connection • show mgcp endpoint • show mgcp nas • show mgcp profile • show mgcp statistics

リリース	変更内容
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS リリース 12.2(8)T に統合されました。このリリースでは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 のサポートは含まれていません。
12.2(11)T	このリリースのコマンドは、Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5800、および Cisco AS5850 でサポートされています。
12.3(11)T	出力が拡張され、コールエージェントの検証が有効化されている場合に、設定されていないコールエージェントがドロップしたパケットが表示されるようになりました。

例

次に、このコマンドを使って VoIP および VoAAL2 の統計情報を表示した出力例を示します。

```
Router# show mgcp statistics
UDP pkts rx 8, tx 9
Unrecognized rx pkts 0, MGCP message parsing errors 0
Duplicate MGCP ack tx 0, Invalid versions count 0
Rx packets from unknown Call Agent 0
CreateConn rx 4, successful 0, failed 0
DeleteConn rx 2, successful 2, failed 0
ModifyConn rx 4, successful 4, failed 0
DeleteConn tx 0, successful 0, failed 0
NotifyRequest rx 0, successful 4, failed 0
AuditConnection rx 0, successful 0, failed 0
AuditEndpoint rx 0, successful 0, failed 0
RestartInProgress tx 1, successful 1, failed 0
Notify tx 0, successful 0, failed 0
ACK tx 8, NACK tx 0
ACK rx 0, NACK rx 0
IP address based Call Agents statistics:
IP address 10.24.167.3, Total msg rx 8, successful 8, failed 0
```

次の例は、MGCP VoIP SRC CAC で設定されたゲートウェイを対象にこのコマンドを実行した場合の出力に表示される、MGCP VoIP SRC CAC 部分を示しています。

```
Router# show mgcp statistics
MGCP System Resource Check Statistics:
-----
Total CreateConn checked by SRC :0
CreateConn accepted by SRC:0
CreateConn rejected by SRC:0
Total ModifyConn checked by SRC :0
ModifyConn accepted by SRC:0
ModifyConn rejected by SRC:0
Reason          Num. of requests rejected
-----
cpu-5sec:       0
cpu-avg:        0
total-mem:      0
io-mem:         0
proc-mem:       0
total-calls:    0
```

下の表に、このコマンド出力で表示される重要なフィールドの説明を示します。

表 25 : show mgcp statistics のフィールドの説明

フィールド	説明
UDP pkts rx, tx	ゲートウェイ MGCP アプリケーションでコールエージェントから送受信された User Datagram Protocol (UDP) パケット数。
Unrecognized rx pkts	MGCP アプリケーションが受信した、認識されていない UDP パケットの数。
MGCP message parsing errors	受信した解析エラー付き MGCP メッセージの数。
Duplicate MGCP ack tx	当該コールエージェントに対して送信された、重複した MGCP 確認応答メッセージの数。
Invalid versions count	無効な MGCP プロトコルバージョンで受信した MGCP メッセージの数。
Rx packets from unknown Call Agent	設定されていないコールエージェントからドロップされたパケット数。
CreateConn rx	ゲートウェイが受信した接続作成 (CRCX) メッセージの数、およびその成功数と失敗数。
DeleteConn rx	ゲートウェイが受信した接続削除 (DLCX) メッセージの数、およびその成功数と失敗数。
DeleteConn tx	ゲートウェイからコールエージェント (CA) に送信された DLCX メッセージの数。
ModifyConn rx	ゲートウェイが受信した接続変更 (MDCX) メッセージの数、およびその成功数と失敗数。
NotifyRequest rx	ゲートウェイが受信した Notify 要求 (RQNT) メッセージの数、およびその成功数と失敗数。
AuditConnection rx	ゲートウェイが受信した監査接続 (AUCX) メッセージの数、およびその成功数と失敗数。
AuditEndpoint rx	ゲートウェイが受信した監査エンドポイント (AUEP) メッセージの数、およびその成功数と失敗数。
RestartInProgress tx	ゲートウェイが送信した再起動中 (RSIP) メッセージの数、およびその成功数と失敗数。
Notify tx	ゲートウェイが送信した Notify (NTFY) メッセージの数、およびその成功数と失敗数。

フィールド	説明
ACK tx, NACK tx	ゲートウェイが送信した確認応答メッセージおよび否定応答メッセージの数。
ACK rx, NACK rx	ゲートウェイが受信した確認応答メッセージおよび否定応答メッセージの数。
IP address based Call Agents statistics: IP address, Total msg rx	当該コールエージェントの IP アドレス、当該コールエージェントから受信した MGCP メッセージの合計数、および受信に成功したメッセージ数と受信に失敗したメッセージ数。
Total CreateConn checked by SRC	SRC コンポーネントによりチェックされた接続作成 (CRCX) メッセージの合計数。
CreateConn accepted by SRC	SRC コンポーネントによるチェック後に承認された CRCX メッセージ数。
CreateConn rejected by SRC	リソースの制約が原因で SRC により拒否された CRCX メッセージ数。
Total ModifyConn checked by SRC	SRC コンポーネントによりチェックされた接続変更 (MDCX) メッセージの合計数。
ModifyConn accepted by SRC	SRC コンポーネントによるチェック後に承認された MDCX メッセージ数。
ModifyConn rejected by SRC	リソースの制約が原因で SRC により拒否された MDCX メッセージ数。
Reason	拒否の原因となった、特定のしきい値の超過。
Num. of requests rejected	拒否された要求の数。
cpu-5sec	過去 5 秒間の CPU 使用率がしきい値を超過したため。
cpu-avg	平均 CPU 使用率がしきい値を超過したため。
total-mem	合計メモリ使用率がしきい値を超過したため。
io-mem	I/O メモリ使用率がしきい値を超過したため。
proc-mem	プロセッサのメモリ使用率がしきい値を超過したため。
total_calls	合計コール数がしきい値を超過したため。

関連コマンド

コマンド	説明
debug mgcp	MGCP エラー、イベント、メディア、パケットおよびパーサーに対するデバッグトレースを有効化します。
mgcp	MGCP のリソースを割り当て、デーモンを起動します。
security password-group	ゲートキーパーゾーンで使用されるパスワードを定義し、そのパスワードをゲートキーパー間の認証用 ID に関連付けます。
show mgcp	MGCP パラメータ情報を表示します。
show mgcp connection	アクティブな MGCP 制御接続の情報を表示します。
show mgcp endpoint	MGCP 制御エンドポイントの情報を表示します。
show mgcp nas	データポートの MGCP NAS 情報を表示します。
show mgcp profile	MGCP プロファイル関連パラメータの値を表示します。

show modem relay statistics

モデムリレーのさまざまな統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show modem relay statistics** コマンドを使用します。

show modem relay statistics {all | phy | pkt | queue | sprt | timer | v14 | v42} [call-identifier call-setup-time call-index]

構文の説明		
	all	モデムリレー機能に関連するすべての統計。
	phy	モデムリレーの物理層に関する統計。
	pkt	モデムリレーのパケタイザに関する統計。
	queue	モデムリレーのキューに関する統計。
	sprt	モデムリレーの SPRT 層に関する統計。
	timer	モデムリレーのタイマーに関する統計。
	v14	モデムリレー V.14 の統計
	v42	モデムリレーに関する V.42 統計。
	call-identifier call-setup-time	(任意) このエントリに関連付けられたコールの開始時におけるシステム稼動時間の値。範囲は 0 ~ 4294967295 です。
	call-identifier call-index	(任意) セットアップ時刻が同一の各コールを区別するために使用する、ダイヤルピア識別番号。範囲は 0 ~ 4294967295 です。

コマンド デフォルト 統計は表示されません。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3620、Cisco 3640、Cisco 3660、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco AS5300 に導入されました。
	12.4(2)T	v14 キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン このコマンドを使用すると、各種タイプのパケット数、エラー数およびイベント数など、すべてのモデムリレーコールに関するさまざまな統計情報を表示できます。

特定のモデムリレーコールの統計を表示するには、**call-identifier** キーワードを使用して、表示したいコールの **call-setup time** および **call index** を指定します。call-setup time と call index の各

値は、**show call active** コマンドで出力される各コールレコードの先頭にある SetupTime フィールドおよび Index フィールドから取得できます。

例

次に、**show modem relay statistics v14** コマンドの出力例を示します。

```
Router# show modem relay statistics v14
ID:11D6
V14 Layer Statistics

sync_count=47 sync_loss_count=46
min_bundle_size_rcvd_local=1 max_bundle_size_rcvd_local=20
min_bundle_size_rcvd_remote=0 max_bundle_size_rcvd_remote=0
info_bytes_removed_dueto_phy_rcv_q=0
overflow_count_rcv_q=0
info_bytes_removed_dueto_old_age_rcv_q=0
info_bytes_discarded_bad_offset_rcv_q=0
info_bytes_overwrite_rcv_q=0
info_bytes_filled_rcv_q=0
total_bytes_rcv_local=310
min_bundle_size_send_local=0, max_bundle_size_send_local=0
min_bundle_size_send_network=1, max_bundle_size_send_network=22
info_bytes_removed_dueto_phy_xmit_q=0, overflow_count_xmit_q=0
info_bytes_discarded_bad_offset_xmit_q=0
info_bytes_overwrite_xmit_q=0
info_bytes_filled_xmit_q=0, total_bytes_xmit_local=0
Total Modem Relay Call Legs = 1
```

次に、このコマンドの出力例を示します。

```
Router# show modem relay statistics all call-identifier 43009 1
ID:3
SPRT Layer Statistics
sprt_info_frames_rcvd=10 sprt_xid_frames_rcvd=0
sprt_tc0_explicit_acks_rcvd=6 sprt_tc1_explicit_acks_rcvd=122
sprt_tc2_explicit_acks_rcvd=126 sprt_destructive_brks_rcvd=0
sprt_expedited_brks_rcvd=0
sprt_non_expedited_brks_rcvd=0
sprt_info_tframes_sent=9 sprt_info_tframes_resent=0
sprt_xid_frames_sent=0 sprt_tc0_explicit_acks_sent=8
sprt_tc1_explicit_acks_sent=129 sprt_tc2_explicit_acks_sent=132
sprt_destructive_brks_sent=0
sprt_expedited_brks_sent=0
sprt_non_expedited_brks_sent=0
sprt_info_tframes_asking_to_consumed=10
sprt_info_tframes_consumed=10
sprt_info_tframes_failed_to_consume=0
sprt_info_bytes_rcvd=10 sprt_info_bytes_sent=76
sprt_pkts_dropped_intf_busy=289 sprt_min_rexmit_timeout=500
sprt_max_rexmit_timeout=500
Queue Statistics
sprt_tc1_rcv_qdrops=0 sprt_tc1_xmit_qdrops=0
sprt_tc2_rcv_qdrops=0 sprt_tc2_xmit_qdrops=0
pktizer_out_qdrops=4 pktizer_in_qdrops=0 v42_xmit_qdrops=0
V42 Layer Statistics
vs_chng_dueto_timeouts=0 vs_chng_dueto_rej=0
vs_chng_dueto_rnr_resp_fl_set=0 nr_seq_exception=0
good_rcvd_lapm_pkts=1385 discarded_rcvd_lapm_pkts=0
rejected_rcvd_lapm_pkts=0 v42_rcvd_iframe=9
```

```

v42_rcvd_rr=1374 v42_rcvd_rnr=0 v42_rcvd_rej=0
v42_rcvd_srej=0 v42_rcvd_sabme=0 v42_rcvd_dm=0
v42_rcvd_ui=0 v42_rcvd_disc=0 v42_rcvd_ua=1
v42_rcvd_frmr=0 v42_rcvd_xid=1 v42_rcvd_test=0
v42_rcvd_destructive_brk=0 v42_rcvd_expedited_brk=0
v42_rcvd_non_expedited_brk=0 v42_rcvd_brkack=0
v42_sent_iframe=10 v42_sent_rr=1464 v42_sent_rnr=0
v42_sent_rej=0 v42_sent_srej=0 v42_sent_sabme=1
v42_sent_dm=0 v42_sent_ui=0 v42_sent_disc=0
v42_sent_ua=0 v42_sent_frmr=0 v42_sent_xid=1
v42_sent_test=0 v42_sent_destructive_brk=0
v42_sent_expedited_brk=0
v42_sent_non_expedited_brk=0
v42_sent_brkack=0
Physical Layer Statistics
  num_local_retrain=0 num_remote_retrain=0
  num_local_speed_shift=0 num_remote_speed_shift=0
  num_sync_loss=0
Packetizer Statistics
  frames_inprogress=5 good_crc_frames=1385
  bad_crc_frames=31 frame_aborts=124
  hdlc_sync_detects=1 hdlc_sync_loss_detects=0
  bad_frames=0
Timer Statistics
  xid_timer_cnt=0 sabme_timer_cnt=0 ack_timer_cnt=0
  chkpnt_timer_cnt=1333

```

次に、このコマンドの出力例を示します。

```

Router# show modem relay statistics all
ID:3
SPRT Layer Statistics
  sprt_info_frames_rcvd=10 sprt_xid_frames_rcvd=0
  sprt_tc0_explicit_acks_rcvd=6 sprt_tc1_explicit_acks_rcvd=155
  sprt_tc2_explicit_acks_rcvd=158 sprt_destructive_brks_rcvd=0
  sprt_expedited_brks_rcvd=0
  sprt_non_expedited_brks_rcvd=0
  sprt_info_tframes_sent=9 sprt_info_tframes_resent=0
  sprt_xid_frames_sent=0 sprt_tc0_explicit_acks_sent=8
  sprt_tc1_explicit_acks_sent=161 sprt_tc2_explicit_acks_sent=165
  sprt_destructive_brks_sent=0
  sprt_expedited_brks_sent=0
  sprt_non_expedited_brks_sent=0
  sprt_info_tframes_asking_to_consumed=10
  sprt_info_tframes_consumed=10
  sprt_info_tframes_failed_to_consume=0
  sprt_info_bytes_rcvd=10 sprt_info_bytes_sent=76
  sprt_pkts_dropped_intf_busy=357 sprt_min_rexmit_timeout=500
  sprt_max_rexmit_timeout=500
Queue Statistics
  sprt_tc1_rcv_qdrops=0 sprt_tc1_xmit_qdrops=0
  sprt_tc2_rcv_qdrops=0 sprt_tc2_xmit_qdrops=0
  pktizer_out_qdrops=4 pktizer_in_qdrops=0 v42_xmit_qdrops=0
V42 Layer Statistics
  vs_chng_dueto_timeouts=0 vs_chng_dueto_rej=0
  vs_chng_dueto_rnr_resp_fl_set=0 nr_seq_exception=0
  good_rcvd_lapm_pkts=1910 discarded_rcvd_lapm_pkts=0
  rejected_rcvd_lapm_pkts=0 v42_rcvd_iframe=9
  v42_rcvd_rr=1899 v42_rcvd_rnr=0 v42_rcvd_rej=0
  v42_rcvd_srej=0 v42_rcvd_sabme=0 v42_rcvd_dm=0
  v42_rcvd_ui=0 v42_rcvd_disc=0 v42_rcvd_ua=1
  v42_rcvd_frmr=0 v42_rcvd_xid=1 v42_rcvd_test=0
  v42_rcvd_destructive_brk=0 v42_rcvd_expedited_brk=0

```

```

v42_rcvd_non_expedited_brk=0 v42_rcvd_brkack=0
v42_sent_iframe=10 v42_sent_rr=1988 v42_sent_rnr=0
v42_sent_rej=0 v42_sent_srej=0 v42_sent_sabme=1
v42_sent_dm=0 v42_sent_ui=0 v42_sent_disc=0
v42_sent_ua=0 v42_sent_frmr=0 v42_sent_xid=1
v42_sent_test=0 v42_sent_destructive_brk=0
v42_sent_expedited_brk=0
v42_sent_non_expedited_brk=0
v42_sent_brkack=0
Physical Layer Statistics
  num_local_retrain=0 num_remote_retrain=0
  num_local_speed_shift=0 num_remote_speed_shift=0
  num_sync_loss=0
Packetizer Statistics
  frames_inprogress=5 good_crc_frames=1910
  bad_crc_frames=31 frame_aborts=124
  hdlc_sync_detects=1 hdlc_sync_loss_detects=0
  bad_frames=0
Timer Statistics
  xid_timer_cnt=0 sabme_timer_cnt=0 ack_timer_cnt=0
  chkpnt_timer_cnt=1809
  Total Modem Relay Call Legs = 1

```

次に、このコマンドの出力例を示します。

```

Router# show modem relay statistics sprt
ID:3
SPRT Layer Statistics
  sprt_info_frames_rcvd=10 sprt_xid_frames_rcvd=0
  sprt_tc0_explicit_acks_rcvd=6 sprt_tc1_explicit_acks_rcvd=177
  sprt_tc2_explicit_acks_rcvd=180 sprt_destructive_brks_rcvd=0
  sprt_expedited_brks_rcvd=0
  sprt_non_expedited_brks_rcvd=0
  sprt_info_tframes_sent=9 sprt_info_tframes_resent=0
  sprt_xid_frames_sent=0 sprt_tc0_explicit_acks_sent=8
  sprt_tc1_explicit_acks_sent=183 sprt_tc2_explicit_acks_sent=187
  sprt_destructive_brks_sent=0
  sprt_expedited_brks_sent=0
  sprt_non_expedited_brks_sent=0
  sprt_info_tframes_asking_to_consume=10
  sprt_info_tframes_consumed=10
  sprt_info_tframes_failed_to_consume=0
  sprt_info_bytes_rcvd=10 sprt_info_bytes_sent=76
  sprt_pkts_dropped_intf_busy=403 sprt_min_rexmit_timeout=500
  sprt_max_rexmit_timeout=500
  Total Modem Relay Call Legs = 1

```

次に、このコマンドの出力例を示します。

```

Router# show modem relay statistics queue
ID:3
Queue Statistics
  sprt_tc1_rcv_qdrops=0 sprt_tc1_xmit_qdrops=0
  sprt_tc2_rcv_qdrops=0 sprt_tc2_xmit_qdrops=0
  pktizer_out_qdrops=4 pktizer_in_qdrops=0 v42_xmit_qdrops=0
  Total Modem Relay Call Legs = 1

```

次に、このコマンドの出力例を示します。

```

Router# show modem relay statistics v42
ID:3
V42 Layer Statistics

```

```

vs_chng_dueto_timeouts=0 vs_chng_dueto_rej=0
vs_chng_dueto_rnr_resp_fl_set=0 nr_seq_exception=0
good_rcvd_lapm_pkts=2442 discarded_rcvd_lapm_pkts=0
rejected_rcvd_lapm_pkts=0 v42_rcvd_iframe=9
v42_rcvd_rr=2431 v42_rcvd_rnr=0 v42_rcvd_rej=0
v42_rcvd_srej=0 v42_rcvd_sabme=0 v42_rcvd_dm=0
v42_rcvd_ui=0 v42_rcvd_disc=0 v42_rcvd_ua=1
v42_rcvd_frmr=0 v42_rcvd_xid=1 v42_rcvd_test=0
v42_rcvd_destructive_brk=0 v42_rcvd_expedited_brk=0
v42_rcvd_non_expedited_brk=0 v42_rcvd_brkack=0
v42_sent_iframe=10 v42_sent_rr=2539 v42_sent_rnr=0
v42_sent_rej=0 v42_sent_srej=0 v42_sent_sabme=1
v42_sent_dm=0 v42_sent_ui=0 v42_sent_disc=0
v42_sent_ua=0 v42_sent_frmr=0 v42_sent_xid=1
v42_sent_test=0 v42_sent_destructive_brk=0
v42_sent_expedited_brk=0
v42_sent_non_expedited_brk=0
v42_sent_brkack=0
Total Modem Relay Call Legs = 1

```

次に、このコマンドの出力例を示します。

```

Router# show modem relay statistics phy
ID:3
Physical Layer Statistics
  num_local_retrain=0 num_remote_retrain=0
  num_local_speed_shift=0 num_remote_speed_shift=0
  num_sync_loss=0
Total Modem Relay Call Legs = 1

```

次に、このコマンドの出力例を示します。

```

Router# show modem relay stat pkt
ID:3
Packetizer Statistics
  frames_inprogress=5 good_crc_frames=2573
  bad_crc_frames=61 frame_aborts=150
  hdlc_sync_detects=1 hdlc_sync_loss_detects=0
  bad_frames=0
Total Modem Relay Call Legs = 1

```

次に、このコマンドの出力例を示します。

```

Router# show modem relay stat timer
ID:3
Timer Statistics
  xid_timer_cnt=0 sabme_timer_cnt=0 ack_timer_cnt=0
  chkpnt_timer_cnt=2750
Total Modem Relay Call Legs = 1

```

関連コマンド

コマンド	説明
debug voip ccapi inout	呼制御 API を介して実行パスをトレースします。
debug vtsp all	統計、トーンおよびイベントを除く、すべての VTSP デバッグを表示します。

コマンド	説明
show call active	進行中の音声コールまたはファクス送信に関するアクティブコール情報を表示します。
show call active voice	進行中のコールに関する現在のコール情報を表示します。
show modems	すべてのモデム構成を表示します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。